明治三十三年十一月二十日發行（明治二十年十一月本會創立）

第三種郵便物認可（明治廿六年四月四日） 毎月一回廿日發行 內務省許可（明治廿一年二月廿八日）

婦人衛生雜誌

第百參拾貳號

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第百三十二號　目次

令旨

（本會例會に於ける總裁殿下よりの令旨）

本日茲に會員の方々と相見ることを得たるは周子の深く喜ぶ所なり願ふに衞生の事たる人世最も大切なることにして婦人の一家を治め子弟を養育する上に於ては皆よく斯の道を辨へ置かでかなはざることなり

本會は役員幷びに會員諸氏の熱心なる協力により次第に隆盛に赴けるは誠に滿足する所なり只茲に一言諸氏に望むところは凡て婦人は衣服に意を用ゐること多きが爲め集會などの席にありては自然衣服競爭の弊に陥ることなしとせず斯くては本會の旨趣にも違ふべければ會員は爾後ます〳〵質素と清潔とを旨とし流行に走るの風を避け成るべく一回も多く出席して有益なる講義を聽き以て自他を益し本會の目的を達せられんことを希望に堪へざる處なり

婦人衛生雜誌第百三十二號

（明治三十三年十一月二十日發行）

講演

小兒の衣服に就て

小兒科專門　宮本　仲君述

私は此間から風邪にて、引き籠つて居りましたが、豫て御約束申上げて置きましたのに、今日の會へ罷出でませぬでは、皆樣方に甚だ御無禮になりますから、推して出て參りましたのでございますから、何分宜い御話も出來ませぬし、其上聲が嗄れてございまして御聞取惡いでございませうが、併し何も聲を遣つて皆さんに御目に懸けるのでもございませぬけれども、咳が出て邪魔になりますが、是から少し御話を致さうと思ひます、其れで甚だ御無禮ではございますが、どうも寒氣が致しますから外套を着ますことを御許しを願ひます、

で今日何か面白い御話を申上げたい積りで色々考へて見ましたが、別段是れと云ふ珍らしい演題も思當りませぬが、昨日一寸考へ附ましたのに、婦人衛生會では先年から此實益實業の事總て實地に事業を行へたいと云ふ御見込は皆さんにありましたやうに存じて居り、其當時即ち去る二十三四年の頃私は此實業の事をお遣りなさらうと云ふならば、子供の養ひとする牛乳が近年唯價ばかりの上に就て競爭するやうになつて、物質の競爭をすることがなくなつて、何でも世間の人が安い物を買はう安い物買はうと云ふやうになつた爲めに、遂に牛乳が非常に惡るくなつた此際婦人衛生會の方々が實業の事を爲さらうと云ふ思召がおありになるならば、會員の方々が先立て、物質の競爭を爲せる方法をお取りになつたら好

からうと云ふことを御協議致して其方法を詳に申し陳へた事がありましたが、其れは遂に行はれなくて仕舞ひました、併しながら近頃漸く世間の人が牛乳が悪るくなつたと云ふことに氣が着いて來て、追々と直段の安い物を望まずに、物質の良い物を望む傾きになつて從つて牛乳屋も幾分か物質改良の上から競爭をするやうになつて來ました、以前私が此會で希望を述べたやうな傾に近來漸くなつて來ましたのは衛生上最も喜ぶへき現象で、無論婦人衛生會の方は私が希望を述べたとを御記臆で疾から〳〵爲さつて居られたのでございませう、今日物質の競爭をする傾きになつて參つたのは、間接に貴所方の與つて力ありと云ふことに基くと私は甚だ喜んで居ります、

就ては又、今日此處に實業をするとか、實益を計るとか云ふことを持出ますと、遂い非常な入費の掛るお話に爲る、入費が掛つても會員の皆さん方銘々には何とも思召はございますまいけれども亦或部分の方には幾分か差支へることもありますし、又此會員の方ばかりが御實行爲すつても、廣く擴まらぬやうのことでは何にもなりませぬから、直段のさう澤山掛らなくて却つて行ひ易いことで、婦人衛生會の德を世間にお擴めある樣にしたいと思ひまして、色々考へて見ましたが差當り是れと云ふ名案も浮びませぬです併し茲には誠に些細の事なから一寸御話しを致し度い事かあります夫れは即ち此間の寒む空にて日々澤山なる衣服を着込んで居る子供を見ますが此の有樣を見て聊か私の感じた所があります、其れを御話して少し皆さんに御協議致したいと思ひます、

其れで題は「小兒の衣服に就て所感を述ぶ」と云ふことにでも致して置きませう即ち私は乳兒と幼稚園に

通ふ位の子供、若くは此小學校の初め位の兒童の衣服に就て、どうも日本服の仕立方の面白くないことを前年から考へて居りました、併し或は私の見方が悪るいのかとも思つて居りましたが、昨年大學のベルツ先生も婦人や子供の常住に就て大層詳しい御話がございました、其節衣服のことも定めて御話のあつた事と思ひます、ドウモ或る點に付ては此日本の衣服は子供の體に甚だ適當しないと云ふ傾きがないとも言はれない所があると私は信じます、又昨年山根君が日本人が段々小さくなる、さうして體が段々弱くなつて、統計上で云ふと百人に就て六十人は弱い體であると云ふことを御話されたやうでありましたが、實に日本の人は私共の見る所でも非常に强壯偉大な方は澤山無い、之に就ても人間の體は子供の中の養生が一番大事だと思へます子供の中に健全無病の樣に能く取扱はないと大きくなつてから俄かにどんなに骨を折つても決して强厚壯大な人にならない、又生長する盛りにズンと伸びて仕舞はないと體が大きくならない、例を引いて見れば、丁度松や梅抔の植木を小さな文人の鉢に植へてひねくれた形にして仕舞つたものを急に地に下して大きく育てやうと思ふてどんな宜い肥料を與れても、どんな上手な植木屋の手に掛けて培養しても其一度文人風に出來た梅や松を育てゝ大きな庭木にすることは出來ない、なぜならば伸びる最中に根を攻めてひねくれた樹にして仕舞つたのであるから、直ほらない、人間も矢張り其れと同じ道理で、盛に伸びる際に十分に伸びるやうにしませぬと、年老つてから大きくならうと思つて、幾ら旨い物を喰べたつて、決して大きくはならない、段々老人になつて腰が曲る外はない、其れでありますから人間も子供の時分が一番大事で、能く親が氣を注けて强壯な立派な體の者に

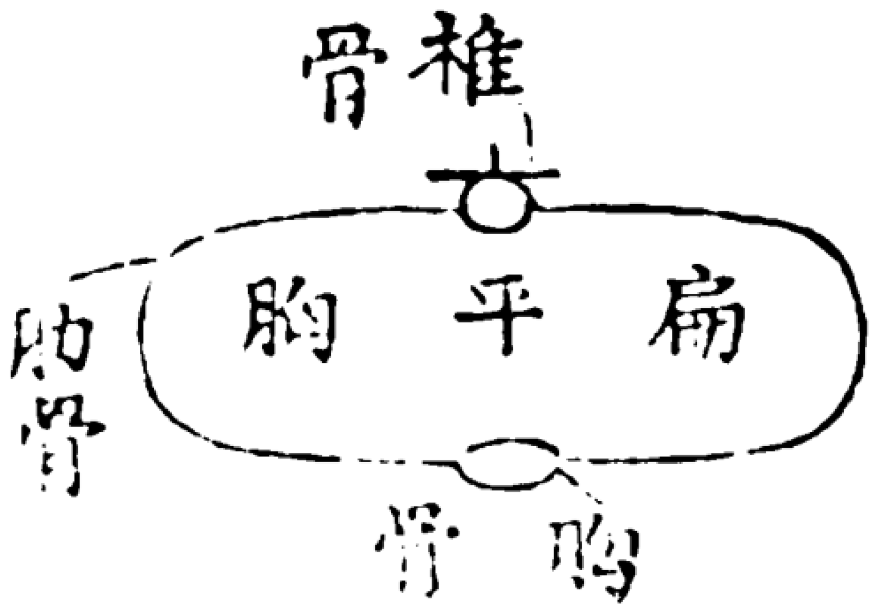
してやらなければなりませぬ、

玆に生れたての子供の體量と云ふものを一寸御話すると、大凡の平均が生れだては男の子が三千「グラム」で女の子が二千八百「グラム」であります、是は西洋人でも日本人でも著しい變りはない、併し西洋人には三「キロ」五六百「グラム」稀には四千「グラム」位ある大きいのもありますし日本人でも三キログラム已上四五百位のもあります、少しは西洋人の方が多きと思はれます西洋でも三「キロ」已上と云ふのは大きい方ですが、私は自分の子供の生れた時に量つて見ました所が、輕いのが女兒で三「キロ」弱で一番重かつたのが三番目の男兒三「キロ」四百「グラム」、決して西洋人にも負けない、是等は日本でも西洋でもマア隨分大きい方です、所で滿一歳になつた所でどうなるかと云ふと、西洋人の子供は平均して大槪九千「グラム」位になります、丁度生れた時より三倍の重さになる、ソコで日本人の子供はどうかと云へば、實にどうも進歩をしない、私共診察所で少し量りましたのですからさう何千人何万人と無病强健の小兒を平均した者ではございませぬが、日本人は滿一歳になつた所で大凡七千「キロ」位から大きくつて七千五百若くは八千位なもんです、甚しいのは六「キロ」位のもあります西洋人とはズンと違つてしまふ、大人になつた所の平均は日本人は男子五十「キロ」(十三貫餘)位ですが、西洋人の平均は六十四「キロ」(男子大約十六貫)位あるのです、女子は尙更違ふ樣に思はれます斯の如く生れたては西洋人でも日本人でも別段變りはありませぬが、滿一歳からズンと違つて來て、大人になつてからは日本人は迚も西洋人に及ばない、之に就ては固より人種の大に關係する所で尙ほ小供の時の養ひ方或は育方のみで斯ふ云ふ結果を起すのではありますまいが、併しながら段々

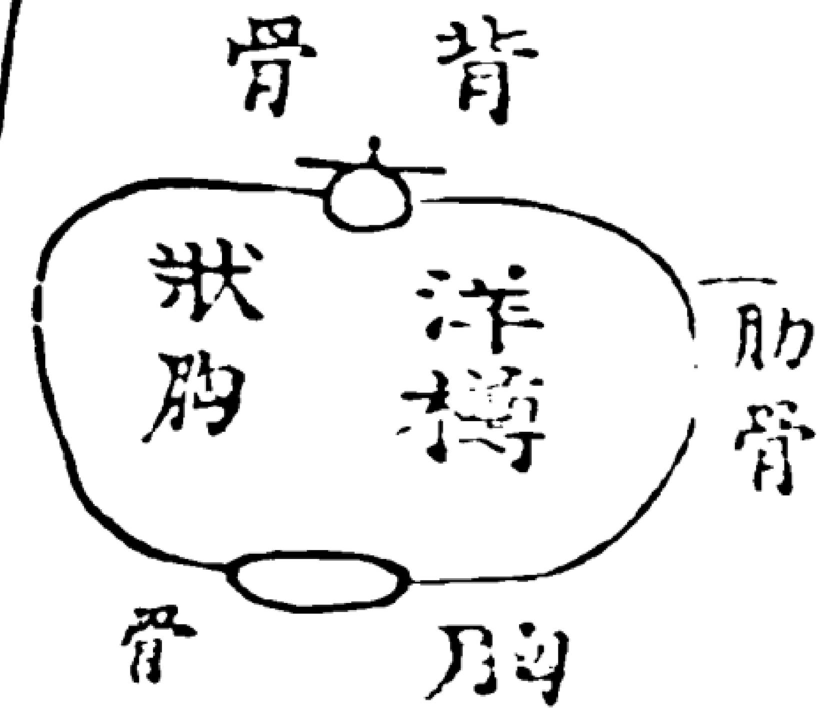
上手に育て、段々大きくする方法を取つたならば、日本人も昔からこんなに小さかつたのではないやうですから、多少利益がないとは限られまいと私は信じます、なぜならば日本の昔の人を御覧なさい、昔の人の着た、昔の人の遺した所の具足とか、或は太刀とか兜とか云ふやうな物を御覧なさい、今の日本人が使つて居る武器は重もに大砲だとか小銃だとか機械的の武器でありますが、往昔の人の使つた武器は腕力的のものが多い此れ抔から考へ及ぼして見ると、日本人も決して往昔は小さい方でなかつたと云ふことが分ります、歴史上にも六尺八寸豈丈などゝ云ふのも見當りますそれがまアどうかしてこんなに萎縮してしまつたのですが、是から段々體を大きくする方法に氣を着けて適當な食物や運動の方法を取つたり、或は衣服などにも注意して往つたならば随分日本人の體も大きくなるかも知れないと思ひます、遂い話が横道に這入りましたけれども、ソコで私の今日重に御話しやうと思ふのは先刻申した通り此日本の衣服は寛濶の様には見ゆれどもドウも仕立方が面白くない日本ハ小児の體の發達を多少害して居るだらうと考へる、殊に小兒の胸膈の發育幷に肩脚等を壓迫して子供の伸びる力を非常に害して居るだらうと考へます、私は極く圖畫は下手でありますから或は御分りにならぬかも知れませぬが、是れから黒板に書いて一つ御話を致しませう。

先つ胸の御話を一寸致しましやう即ち此人間の胸と云ふものは、御承知の通り椎骨と胸骨と云ふのと肋骨と申すのと此三つの骨から圍まれて居るのでありますが、其骨の形造り具合に依つて、極く丈夫な胸と弱い胸とが分ります、此胸の形状には澤山に種類がありますが先づ廣い胸と云ふのは、此左右に廣い胸、厚い胸と云ふのは前後に大層厚いのを云ふので

す、廣くつて厚い胸と云ふのは私共の最も健康な構造と認める所の胸であります、此れに反對な胸、即ち薄い胸、狹まい胸、其れからまた細いだれた胸、歪な胸と云ふやうに、色々な胸があります、胸の形ちを一寸御話すればこんなやうな格好のがある、



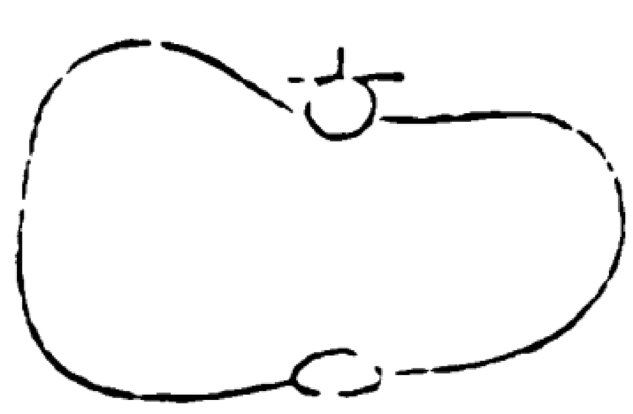
斯う云ふやうな薄い平たいのを扁平胸と云ふのです、是は胸を斯う横に切つた所ですが、私は極く描が下手ですから旨く書けませぬが、こんなやうな胸の人は弱いのです、肺病のある人などは皆なこんな胸です、是れから胸骨の處か突出して斯う云ふ風に高くなつて居る、こんなのも亦良くない、弱い方です或は又後ろの方に突出してこんなやうな胸があ



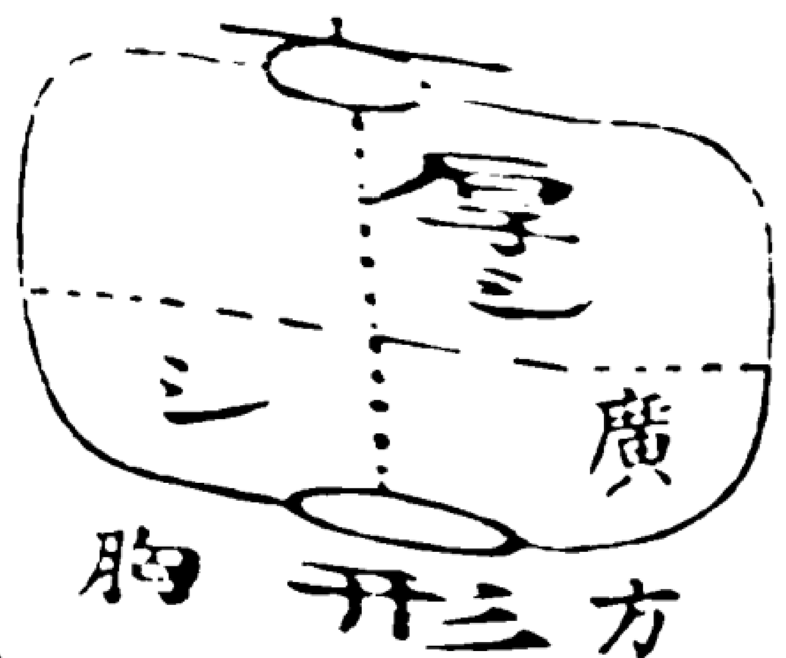
る、是も可けない、其れから幅が狹くつて前の方に（辨士手眞似を以て示す）こんな工合にピョコンと突出して居るのもある、其れから是よりもつと引込んで子供の時分に數々氣管支加答兒又は肺炎等呼吸器の疾抔を煩つた人若くは腺病性の者には、斯う云ふ佝僂病的ののがある



兩端が出張つて、こゝの所がピョコ

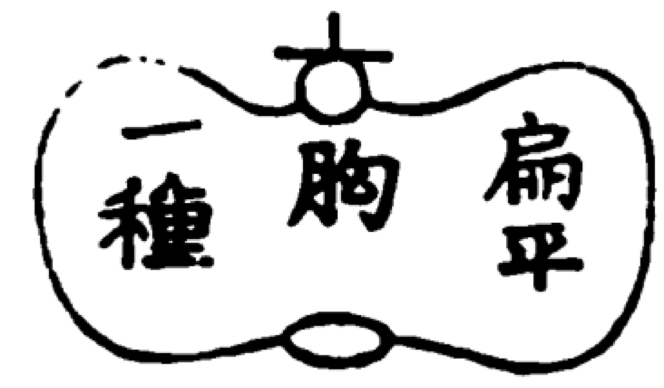


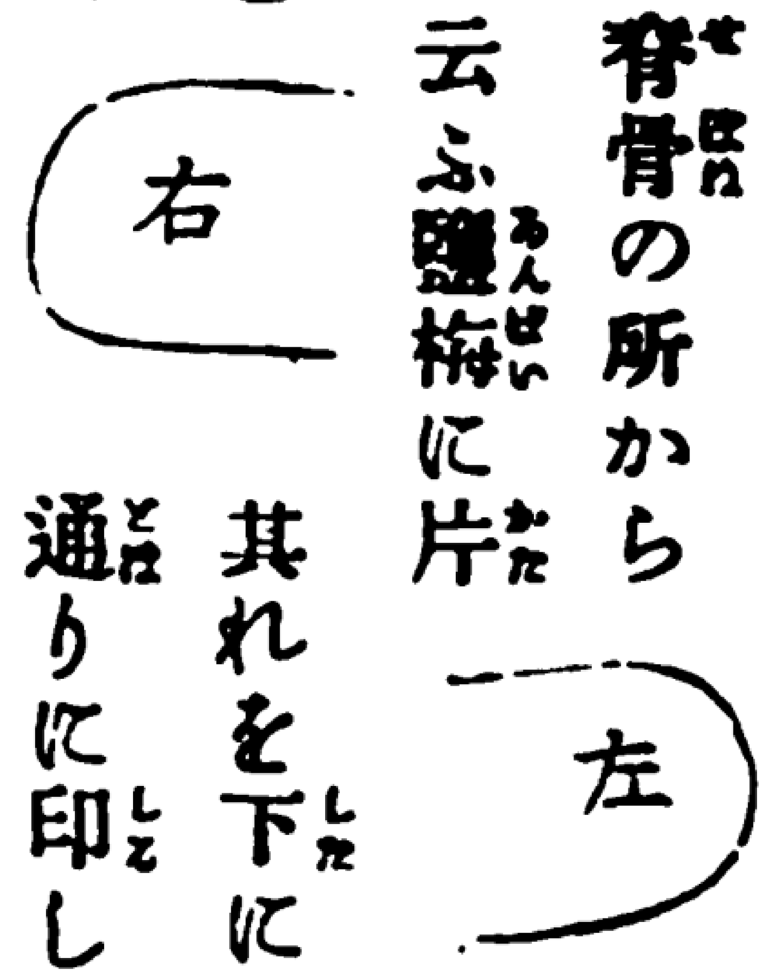
ンと凹んで、實に妙な格好です、（之は扁平胸の一種で膨盆に能く似て居ります）こんなのが一番弱い胸です、夫から一番良い胸と云ふのは斯う云ふ横に廣く前後に厚いのです、斯う云ふのは相撲取とか或は私共の様な（手眞似を以て示す）斯う云ふ風に肩が怒つて百姓作りの胸、



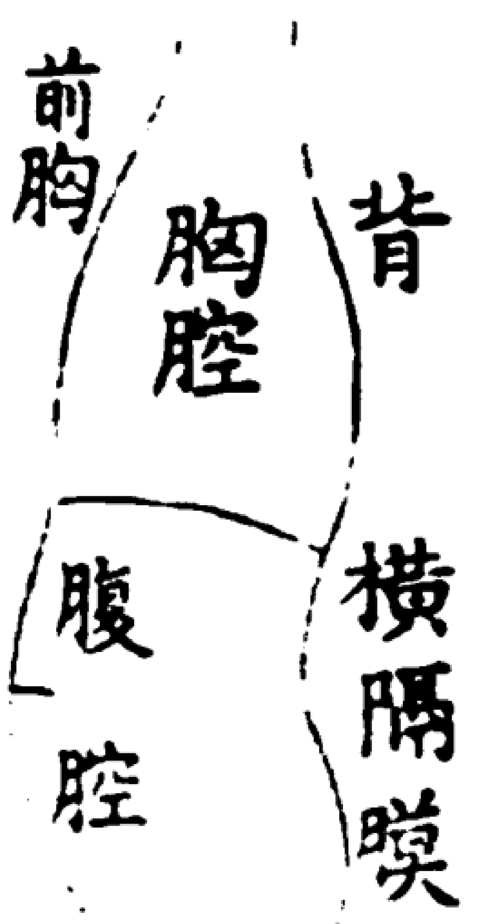
是が一番強壯な胸です、横に幅が廣くつてこゝの所の厚さが厚くつて一寸四角なやうな格好になつて居る、是を方形胸と云ひます、第一の圖は之を扁平胸と名けてあります失禮な事を言ふやうですが日本でも御婦人方には此扁平胸が多くあつても一寸分らない何故なればお若い方々には此處の處に斯う云ふ風に(胸を示し)乳房が大きく附いて居りますから、一寸外から見ると方形胸のやうに見ゆるですが、お年を老つては乳房が小さく萎みます時は扁平胸が能く分る併し此處の所を手でもつて押して見ると扁平胸が能く分る乳母の撿査の際に此人の胸は大變良い胸だと思つて好々探て見ると、なアに扁平胸であるのがあります、隨分御婦人には扁平胸が多いのであります、(第二に畫きたるを指して)其れから斯う云ふのを樽狀胸と云ひます、一寸形ちが西洋の樽のやうに似て居りますから、其れで是を樽狀胸と命けてあるのでございます、(第三に畫きたるを指して)是れも虛弱の方には能くある胸で、一寸方形胸のやうに似て居りますが方形胸とは違ひます、肺病などのある人の胸には、能く斯う云ふ格好のがある、(第四に畫きたるを指して)其れから是れですが是は私が便利上膿盆胸と命けて居ります、是は私が自分の書生杯に敎へます時に、一言に其形を示す便利上から附けた名で、此處の所が出張つて此處の下の所がピヨコンと凹んで、一寸膿盆の形ちに似て居りますから、書生杯の勉強も覺え易い爲めに、斯く命けて敎へて居りますが、斯う云ふのは重に子供の時の養ひが惡るかつたり、或は骨の柔かい時分に重い病氣に罹つたりした人に能く斯う云ふ胸がありますす、其れから肋膜肺炎症とか、或は一方の肋膜に焮衝を發し肺を壓縮したりしたためにこんなやうな風に片ッ方ばかり發育してこんな歪つな格好の胸が

ある實に胸の種類には色々な奇躰な格好になつたのが澤山あります、之を計るには細い鉛の針金を持て來て、脊骨の所から斯う云ふ鹽梅に片側つゝ胸の形を取つて、又片方を斯う云ふ風に取つて其れを下に置いて其通りに印しを附けて全形を取るのでありますが、今日は針金を持て參つて居りませぬから、取つて御覽に入れることは出來ませぬ又た脊骨と胸骨の間即ち前后の關係を横に見た所を御話すると、扁平胸の人のは脊骨の所から胸がズーッと平らになつて居る、反之方形胸の人のは斯う云ふ風にゆつたりと胸が張出して、相撲取

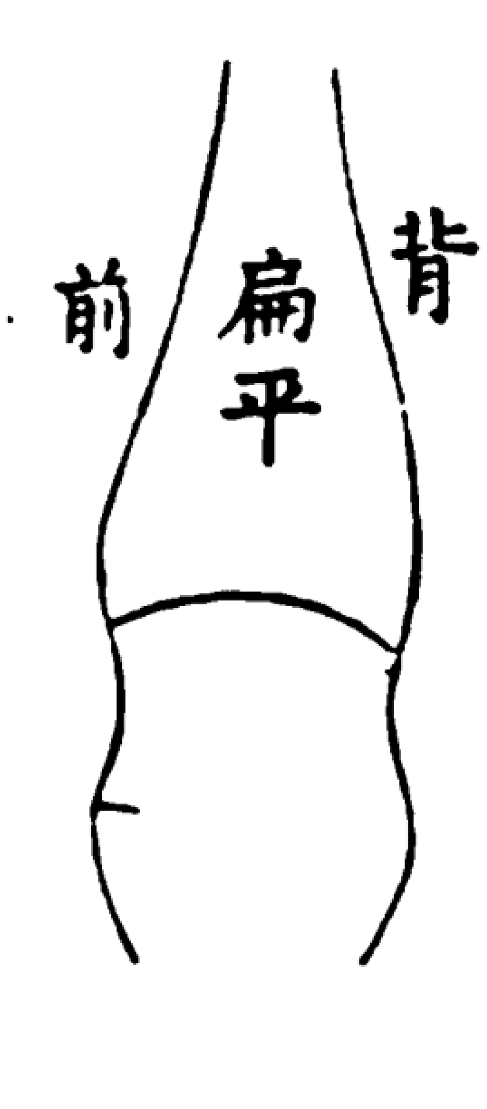




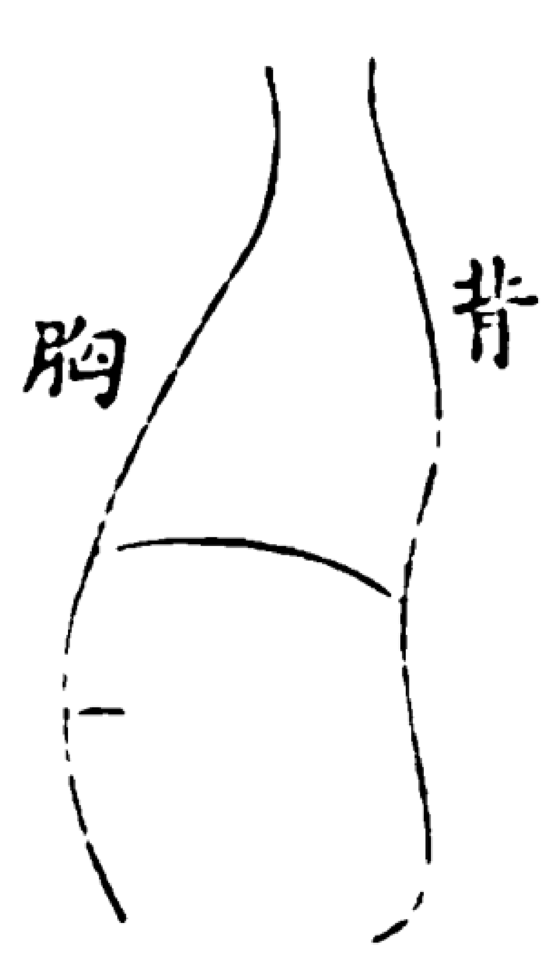




とか百姓とか極く丈夫な人のは此處が發育して立派な格好になつて居る、膿盆のやうな形の胸の人のは、一寸こんな鹽梅式にお腹が膨れて此胸の下方の所が引込んで寔に變な形になつて居る、其れからまだこんなのもある、此外にまだ區別をすると色々な形のものがありますけれども、先づざつと二三の例を御話するとこんな風です、扁平胸の人のは(圖を示す)こゝの所が斯やうに眞平になつて胸が寔に狭い







樽狀胸の人のは(圖を示す)こゝの所がこんな風に丁度樽の形見たやうになつて突出するが横が大層狭い寔に形が悪いそれから肩を申せは方形胸の人のを

見まするど私抔の肩のやうに(手眞似を以て示す)こゝの兩肩がズーッと張つて丁度こんな風に鎖骨か外



端の方高くッて胸骨端の方か低く肩に肉があつて首が太くて物を擔ぐに便利のやうないかつて居る、扁平胸などの人の肩はこんな風に鎖骨外端か低くなつて居る此外肩の形にも色々種類がありまして、こゝの所がズーッと落ちたり或は首か細くつて長くヒヨロヒヨロとして居るのだの、分けて見ると澤山あるが、人の胸と云ふものは(圖を示す)斯う云ふ風に胸が丁度眞四角なやうになつて居るのでなければ、本統の宜い胸と云ふことは出來ないのであります、從來撫で肩の善い姿だなどゝ云ふたのは衛生上には尤も厭やな躰格の者であります

ソコデ今日私が皆さんに御相談致さうと云ふのは先程も申します通り日本の子供の衣服です、是はどう云ふ所から心付たかと云ふと、毎日澤山の子供を診察する時に心付たのです、其れも忙しい時には二人も前から順々に帶を解かして置いて私の前に連れて來る時は左程氣が着きませぬが、時によると私が自身で帶を解いてやる事がある、其時に先づ子供の帶を解いて附紐を解く、さうすると又下着にも附紐が結んである、其れを取ると又其下にも附紐がある、詰りてん〳〵とつこに附紐が付いて居つて丁度竹の子の皮を剝ぐやうに、七枚も八枚も着物を着て銘々に前を合せて居るのがある而して又た其れに一枚々々に附紐が付いて居るのがある、其れから又其樣子を見ると附紐で固く子供の腹を締めて居る、ソレデスカラ急ぐ時なんぞに解くのは甚た困るナカ〳〵手間が掛る、此附紐に就てはベルッ先生も寔に可けぬ

と言はれて居る、どう云ふ譯かと云ふと附紐が大概此胸とお腹との間の處を締めるから害になると云ふのです初めは母親が附紐を程好く締めて置きませうが、子供を抱上げると其度に附紐が丁度胸廓の所に往つてしまふ即ち胸が締められて躰に大變害になる私が診察を終つてから見て居ると今度は着物を着けるのに(手眞似を以て示す)斯う云ふ風な工合に一枚々々に緊く襟を合して固く胸を締付けて着る傍から見て居ても苦しさうに固く着物を着せる之を緊く合せなければ小兒の胸は場所が狹いから少し緩んだ様でも出て仕舞ふには困るから毎度私は言ふのです、着物は成るべくゆつたりと着せなければ可かぬと云ふのです、けれども今の衣服の胸形では決して行はれない、又日本小兒の着物は總て前で合して附紐で止めて置くのですから、どうしたつて(手眞似を以て示す)斯う云ふ風に頸を纏ひ胸を壓します若しソーしませぬと、前がはだかつて來て着物がグス／＼になつて胸が開ひてしまふ、狹き短き子供の胸には其程度を取り悪い、去りながら附紐は成べく腹を締めないやうにゆるく結んでお置きなさいと云つても、ナカ／＼さうはしませぬ、下等社會の内儀さん抔には幾ら話したつて分りませぬ、其れは隨分可笑しい間違ひがあります、下等社會の人抔には此方で實に困る、ホンの御笑草ですか可笑しな間違ひの御話をすると、そんな事が世の中にあるかと思召すやうな餘程可笑しな事がある、例之は斯う云ふ話です「此粉藥は午後にお飲ませなさい」と云つて粉藥を渡した、さうすると其人が歸りがけに書生に向つて「此粉藥はお汁粉で飲ませるのですか」と聞いた、書生は何だか分らない、私にも少しも何の事だか分らない、すると傍に氣の利いた人が居て「其れは御間違ひでせう先刻先生が仰つたのは、午後にお飲ませ

なさいと云つたのです、お汁粉は午後のお間違ひでございませう」と云つたので、其間違話が分りましたが、世の中にはこんな人がある、粉藥をお汁粉でもつて飲ませる杯と思つて居る人がある、餘程奇躰です、實にこんな詰らない事が分らない人があるのですから、私が幾ら子供の着物に就て話しても、附紐を固く締めては可けませぬ、お腹を緊付けると呼吸器にも消化機にも即ち肺や胃に大變害があるから成べくゆるく締めなければ可けませぬと話したつて決して行はれない、固より其理屈が分らないのでせう」、ソコで此日本人の衣服と云ふものは一寸想像した所では、日本の服の方が西洋のものより大變宜いやうに思はれる、日本の服は胸でも胴でも廣くつて、さうして大層緩やかの様に見えて工合が宜さソウに、考へられますが、併しながら日本服は大人には善いが小兒の胸に付ては實際は決してさうでない、元來此衣服と云ふものは殊に子供の衣服にしても大人の衣服にしても躰を窮屈にすると云ふことは最も可けない事です、其中にも子供は日に月に躰が伸るもので殊に發育の盛んな時分に、此躰勢を窮屈にすると云ふことは極く悪るい、出來るだけ胸などを寛かにして、此處に十分のゆとりを付けて置くやうにしなければならぬ、西洋でも此子供の衣服のことに就ては窮屈の無い様に輕い様にと大層研究して居るやうですが、子供の衣服に就ては最も注意をしませぬと大變發育を妨げます、衛生上に就て大に考ふべき者で唯だ形の善悪や風の美醜等のみを以て論すべき者で無い日本服は他は緩大なるが胸部と襟の付け工合が悪い斯の如き服裝は此胸を狹めてしまふ、どうしても弱い人間にならねばならぬ此衣服の窮屈が躰格の不良を大に輔くることゝ思ひまする此様の小兒服は改むるの必要があると思ひます

一躰衣服を着用すると云ふことは、――少し話が後に戻るやうですが、衣服と云ふものは、一躰我が身躰を蔽ひ寒暑とか乾濕とか、風とか乃至は埃とかと云ふものを防ぐ所の要が、重もなる大趣意で、それから先は綺麗だとか或は見格好が宜いとか云ふやうな流行事は、其れは附屬の希望であるのみです丁度此家屋と云ふものは寒暑を節度にし風雪雨露等を凌き、同時に色々な塵埃とか、動物類等とが外來の襲擊を防ぐなどが大趣意で衛生上に必要なる所のものである、其れでありますから其要旨に適ひさいすれば宜しいこんなやうな（櫻井小學校を指す）ズーッと廣い建物に此儘で住つても宜いのですけれども、まさかに貴顯とか紳士とか云ふ方がこんな裝飾も何もない所には自身の上に取りても社會から見ても住むことが出來まい、其れには又副旨たる要用即ち躰裁と云ふことも要るから、遂に建築を壯麗にし疊建具は勿論のこと壁にもつて往つて掛物や額を掛け種々の飾り付けを爲して躰裁を好くする等前の本主意から一段進んで、人間が智識の發達に伴ふて段々色々な事を考へ出すのである如何に綺麗に飾りがしてあると云つたからとて無いからとて、住居すると云ふ衛生上の要旨に至つては決して變りは無い、其れと同じことで食物でも矢張り其通りです、大層見た所は旨さうでも、中には滋養にならないものもある、料理の大主意は滋養物を消化し易く美味く製するのが眼目である珍味を集め名酒を傾くるが如きは副旨に過ぎないのであります住居でも飲食でも本主意から云へば極單簡なるものでありますが併しながら人間は追々智識が開け社會の程度が進むに從つて其副旨意を應用して身躰の上にも精神の上にも利益を作つて行くのであります此れと同じく衣服に至つても本主意の上に副趣旨を加へるので袖も丈

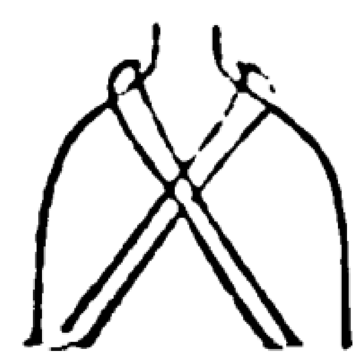
もどうでも宜い地合色合縞柄などゝ何んでも宜いと云ふ譯には往きませぬ、袖の丈は幾ら身幅が幾ら柄には何模様は何とか工風を付る是は先づ御婦人方の成される仕事になつて居りますが、隨分御面倒な事であります、人間の智識の發達すればする程此副旨は益々進んで應用せらるゝとであります併し我々醫學の上より申せば衣食住共悉く副旨にのみ流れ過ぎて大肝要なる主意を失はぬ樣に一入御注意を希望致し度いです此會の皆樣方は何卒此事の御唱道を願ひ度ひとであります

チト餘計の言を申し過ぎましたソコデ此子供の衣服と云ふものは大人のものと少し異なる注意を加へなくてはならない即ち寒暑を節し塵垢を避け濕氣を防ぐとか云ふばかりで無しに、澤山着せても其れを輕く感じさせて、何處も彼處もゆつたりとして小しも緊迫の處がなくて自由であると云ふとが必要であらうと思ひます、先程御話かけの處に戻つて參りますが、日本で銘々見る子供の衣服の害は就中幾重にも銘々まいに合して、さうして其合した所へもつて往つて附紐が付いて居るなど甚だ善くない幾條かの紐でお腹を堅く緊める、子供を抱上げると（手眞似を以て示す）此處の邊がたくし上げられて胸を締める此紐のみならず銘々前に緊く合せる故に胸の前壁を壓するとが甚しい此は日々私が診察にて實見する所であります、それから小し大きい七ッ八ッ位から上の子供にては、殊に女の子に多ふございますが襟を澤山にちきんと合して居る、此結果は必ず胸を非常に壓迫して、肩を非常に引釣る結果になるだらうと思ひます、私共原來日本の衣服は西洋の衣服より着た所が緩かで樂だと思つて居りましたが小兒に付ては近頃注意するに案に相違して此胸を壓迫する事が餘程西洋の衣服より惡るいと思ひます、夫れは着

せ方の悪いにも大に關係致しますか唯だ其れ計りでもない様に思ひます今其一二の點を擧げましよう日本の衣服は西洋の衣服と違つて肩の僻が取つて居ら



ないこれを肩としますると是へ持つて往つて斯う云ふ工合に襟を巻き着るのですから、加之胸にも僻が取つてない前が狹い胸が開き易い然るを能く合せ様とするから此兩方の肩を前へ引付ける事になる、其



上又た斯う襟先きに紐を付けて此前の方を下へ引張つた儘結び付る從つて頸が前の方に引張り付けられる若し此紐を緩めると小兒の胸前壁は寸尺が短かいから前がはだかると思ふと直に胸が裸き出してしまふ、其れを見掛けると母親さんがそのはだかりを直してやろうと矢鱈にこゝの所を引張るから丁度横から見ると、斯う云ふ風になつて居る所を、前へ、前へと引



張るから丁度紐を頸にかけて引張る如く遂に屈むやうになつて來る即ち頸より胸前に交叉して紐を後ろで締めますと取りも直さず西洋の8の字形に頸と腹とに強く襷を掛けて引き張ると同じく頸首は遂に前屈しなければならぬ結果となります實に嫩弱の幼兒の頭は自然に胸と共に前屈して所謂ゆる猫背となります實に些細の事の様ではありますが若し注意せずた此襟を固く胸の上に重ねて着せたならば日々習慣の様に遂に斯う屈んで仕舞う、大い兒童なれば我が力で反つて頸と肩で着物を後に引張つて胸へ自分から緩みを附けますが、まだ二三歳乃至七八歳位の子供では未だ其の作用が足らず殊に嬰兒より既に習慣にせられて知らず識らず最早前屈したる斯うおじぎ腰の姿勢になつて居る故に母も保姆も皆な其の屈したる不良の胸廓に成つたとを不審に思はぬ御覧遊ばせ日本人の姿勢は多分は皆な前屈したる猫背形であ

るとを若し附け紐を緩く結んで胸に引き上げられれは頸の屈する憂に減ずるけれども代りに胸の下方を締め附て壓迫を結果します孰れか此二つの害は免れ得ない、紐と襟とで全く8字形を爲して居る故です加之まだ此外に日本の子供の着物には縫上げと云ふものがある、是が又一枚々々にしてあるから澤山着物を着せると前の方がこんなに澁れて居る、子供が又外へ出て彼方此方と奔走すると着物が皆な上と前とに押上げられ且つ裸かつて下の方は變な具合は廣がつて足が出て其の先が誠に冷へる此縫上げの不便は後日に讓りまして單一に其重サと量サとを考へても頸を引かれ前がはたかる道理は分明である故に日々の事でもあり慣て居るから一寸見るとさう思はないですが、是がナカ／＼幼兒に取りては酷い、今日此傍聽席にお出て居るお孃さん方の中でも、胸を堅く緊めて居らるゝ方が澤山見える、實に甚い、貴所失禮ですけれども一寸お見せなさい

〔此時辯士傍聽席に在て一少女の許に到り少女の胸を探ッて見る〕

そうら御覽なさい、此通りです、手も何も這入らない位にこんなに固く胸を締てです、斯う云ふ風に幼兒より胸を締付けて居るのですから、どうしたつて扁平胸や樽狀胸にならなくちやならない譯です、幼兒の柔かいシンコ細工みた樣な胸を、斯うきつく押付けて居るのですから堪りませぬ、其上に此胸の所にもつて來て、斯う厚い帶をこんなに堅く締めて居る、是ぢやどうしたつて不正形の胸になる理窟です、

此帶に就ては些と横道に話し入りますが斯う云ふ話がある先年一日或華族さんからお孃樣が御病氣だから來て呉いと云ふので私が出まして診察をした先づ其胸の打診を仕た然る處左の側の肺の下葉と云ふ邊

は全く肺病人に聽く樣の音を發する躰格もよし平素壯健の方には不審だから篤と勘考した處若しや紐や帶を固く締めてお腹を壓迫せるからでは無いかと心付いたそれから帶を悉く解いて御覽なさいと云つて腹を緩め暫くして再び打つて診察して見ると、其の『ポン〳〵』と皷音を發したる境界の下たに降つて殆んど尋常に位置に復しました凡そ一寸餘も下りて來た、其れから段々考へて見ると、全く帶をきつく締めたので胃を壓し上げ橫隔膜を押付けて、肺が斯う押し狹はめられた爲めに胃の音と連繫して此んな音が出來たので肺には全く無病であつたと云ふことが分つた、尤も其時の病氣は胃「カタル」で多少胃は緊滿して在つた肺病でなくて安心した就て私は其時にさう申したのです、是は全く貴孃が帶を堅くお締めですからこんな風になつたのです此後、帶は必ずこんなにきつく締めては可けませぬ、成べくゆるく締めてお腹にゆとりが付かないと、消化機をも大變害しますからと申したのです、どうも娘さん方は帶を堅く締めると腰の姿が好いとか見格好が好いとか云つて帶をきつくお締めですが幾ら見格好がいゝからと云つて體の害になることはしては可けませぬ、丁度西洋の「コーセット」がそんなやうな物で、アレも風が好いと云ふのであんな物を締めるのですが體には極く宜しくありませぬ夫れ故衞生上から此を種々論したり或は廢止會などを起した例も承知しましたが幾百年の習慣で中々急には行はれませぬ併し小兒の頃には此んな物は決して用へませぬ、其れに子供の中は比較的大人より胃腸が大きいもので食物を澤山喫べる、發育する盛りにはナカ〳〵大人も負ける程食物を喫べるものですから、そこへもつて來て帶を堅く緊めると云ふのは全く宜しくない腸を惡るくするのみならず、橫隔膜より肺までも押付け

るから、自然全身を害するやうになる、襟を斯うしッかり合して胸を押付ける其上に、帯は堅く緊められる、さうして着物がはだかると前の方へ引張り付ける困つたものです

ソコデ私の考へた子供の着物と云ふのは斯う云ふ格好ですが、（辯士新案の小見の衣服を見せる）今日までは日本の小見服に付て世人が餘り氣を着けませぬが、先づ子供の着物と云ふものは衣服を軽く柔かに感ぜしめる事が一つ、其れから肩から首を引張らない工風が一ッ胸とお腹に緩みを取る工風が一ッ、此三ッの點は尤も必要です其れですから私は色々考へたが、先づ斯う云ふ風にしたら胸を押へる事も無からうと思ふ、胸を壓し肺が廣がらずしては肺に良い空氣が澤山に這入らないやうになる然る時は矢張り體を害する、肺が悪るくなるとか乃至は一寸しても氣管支の加答兒を起すとか、色々な病氣が染り易い體になる、體が弱ければ從つて壽命が短かくなる理屈ですから、どうぞして健康な體になつて自分から病氣を惹起さないやうに注意しなければならぬ、私共のやうに生長して來ると日本服は寔にゆつたりして自由がきいて好うございますが、子供にはナカ〳〵さうは往かない、今の子供の衣服と云ふものは他は緩かで反之必要な所が皆んな窮窟になつて居る、御婦人方の衣服でも男の衣服でも道理は一つですが、もう中學においでになる位の方であると日本服でも胸がゆつたりして却て洋服を着たより窮窟でないけれども、十歳以下のまだ小學校に通つて居る生徒には附紐肩上げの日本服が寔に可けない、私共の子供には専ら斯う云ふものを着せて置きますが、今度御話するに就ても實は色々工風をして見ましたが、どうも好い工風が附かない、就ては私の希望は今のやうな害を擧げて見れば澤山害もありますし、

又實例も澤山御話する材料もありますが、今日は咽喉が悪うございますから、餘りお饒舌を仕過ぎると後で又咽喉が恐ろしうございますから、大概な所で御免を蒙むつて置きますが、私の希望は婦人衛生會の方が唯私共の饒舌るのを聞いて成程面白いと思つてお聞き下さるのも、其れもまア大層實益もあるでございませうが、願くは此處で唯お聞になるだけでなしに、皆さん方の中から衣服改良の委員をお設けなすつて、衣服裁縫の御經驗のある方、或は子供をお育でなさる方の中から、委員を五人なり乃至は十人なりお設けなすつて、其方々が毎月第一の土曜とか、若くは第二の土曜とか日をおきめになつて、或所へ御集會になりまして、皆さん方が持合つて此形はどうだらう、成程此形は面白いとか、或は子供のある方が子供の癖を見て、子供は能く斯う云ふことをするものだから、此處は斯うした方が宜からうとか、幾つも拵へた中から此處は好いか此處は悪るいと云ふ所があれば、其好い所を取て來て此方の好い所を合して之を採用すると云ふことに、お互にお作りなすつたものを持合つて、子供の衣服改良と云ふことをおやり下すつたらどうであらうかと云ふ私の希望であります、

就ては私が今日此處に持て參りました此品は（辯士小兒の衣服を示さる）子供の寐卷でございまして、寐卷だけに少し形ちが悪うございます、宅の子供に平素着せて置きますのは足が長いのです、是は夏の寐卷の積りですから足を短かく拵へましたが、冬のは矢張り足を長くしてあります、皆さんも御存じでせう、或は皆さんも御用ゐになつて居るか知れませぬが、彼の衛生腹掛と命けて、腹掛に股引をくッつけたのを拵へて諸方に賣て居りますが、彼品と能く似て居ります詰り衛生腹掛から思付いたのですが、

唯私の考への違ふ所は此口を前でもつて開けてあるのですが私のは後ろに口を開けたのです、子供と云ふ者は後ろに手を廻すことの寔に不器用なもので殊に赤ん坊はお腹の中に居る間は斯う云ふ風に（辯士手眞似を以て示す）丸まつて這入つて居るもんですから、其習慣が付いて居つて此後ろに手を廻すことは寔に不器用なものです、然るに是までの日本の衣服は皆な前で合せるやうになつて居る斯う云ふ鹽梅式に矢張り前へ口が開いて居りますから、詰り後ろから着せて後ろに脱がせる、西洋には筒袖の往々斯う云ふ風に前から着せるのかあり近來は日本ても往々前から着せる樣にお仕立なさる方も見掛けますが是は矢張り前から着せるので其方が餘程樂だらうと思ひまして、こんな格好に拵たのです、此の方が餘程便利です、詰り斯う云ふ鹽梅式に（辯士手眞似を以て示す）子供を斯う寐かして置きまして、此着物を上から斯う被ぶせる、さうして先づ下から足を先に斯う通してしまつて、それから手を又前へ斯う出引す、さうして子供を起してから、着物を能く直して斯う云ふ風に後ろで合せる、詰り手も足も渾て前から着せるのです、

其れからもう一つは斯う云ふ風の物ですが、（辯士小兒の衣服を示さる）先程も御話した通り第一に胸を緊めない事、第二に首と肩とを引張らない事、第三に腹を緊めない事、先づ此三つを專一にして色々と考へて見ましたけれども、どうも旨い考が出ない、ソコで先づこんな物を急に拵へて見たのですが、斯うしますと從來の日本の着物のやうに襟を胸で引き合はせないですから、先づ胸は寛やかです、それから肩の引けるのは斯う云ふ風に襟を横にもつて往つて此處で斯う紐を結んで置きますから頸も肩も先づ引張らない、附紐も斯うすれば大きなのを附けずに

濟みます、總て此横の方で小紐を結んで置く、一寸斯う支那人の衣服のやうですが、是に就ても色々考へて見たのですが左右二枚相重なる故に胸の處が厚くなり易いのが一ツの不利であります依て胸の處は薄く綿を作りたらは宜しからん、どうも日本の着物は西洋人の着物のやうに上下別でないから一寸考へが難かしい、先づ斯うすれば餘程肩に輕く感ぜしめる事が出來やうと思ふ、丁度斯う筒のやうになつて居りますから、身体に輕く寛やかに感ずると思ふ若し下部が冷ゆるならば腹卷でも股引でも併せ用へて差支ないだらうと思ひます、是までの日本人の着物は下着だとか胴着だとか皆な斯う胸の中央へもつて來て合して居るから此處が厚くなつて困ります加之歩行く時に双方の裾が脚の前で重つて居るから寔に足に搦んで歩き惡い、即ち此を改良せんとなれば前から着て後ろで合せる樣にするか又は西洋婦人の服を參考して此邊から斯う下の方へ襞積を取つて、此處にそれだけのゆとりを付けるなどは宜からうと思ひます、後ろの方も此處いらから猶豫を付けてあがきの取れるやうにしたら何にも差支ないと思はれる夫れ等の事は後日に讓づりて唯だ茲には從來の襟が知らず識らずの間に胸壁を緊强壓迫するとあるが故に其れに緩みを付けたら宜かろうと申すを初めとして改良を促すのでありますそれから甚だ失敬な事を申上げるやうですが、どうも衞生上の御話を致すには仕方がない、さう〳〵飾つて申上げる譯に往きませぬから、遠慮なく申上げ失敬でありますが大小便を遣らすものに斯うなつて居れば、直ぐ出來ますから寔に譯がない、スッと斯うやれば筒のやうになつて居るのですから直ぐと捲れてしまふ、是は着せた結果でありませぬから、さう旨く往くか往かないか分りませぬが、先づ考へた所で旨く往きさうです、

若も是で可けなければ支那人の衣服みたいにして仕舞へば好うございませう、支那人の衣服を參考して改良したら日本の小兒には甚だ適當するかと思はれます西洋の風が善いですけれ共日本の住居には相應し恐くい丁度此の胸の處は支那服のやうに此端へ紐を付けて、或は又此方の方に紐釦を付けて、斯う止めるやうにする、こんな風に紐で結んで置く方が好からうと思ひます、夏の着物にはこんなのを拵へて着せて見たこともありますが、冬のはまだ經驗がありませぬが、冬のはどうしても薄ければ寒うございますから、是非綿を入れなければならぬ、綿を入れると餘程胸の處が厚くなりますから、少し重くなる、併し何でも先づ肩を前へ引張らない事を專一として、作り度いと思ひます是は實は昨晩宅の女中に拵へさせて見たのですが、今日の御話の材料に取敢へず拵へて見たのです、若し是で咽喉が少し窮屈ぢやないかと思つたら、褄を少し斯う云ふ風に付ければ、此處の口が下へ斯う廣くなりますから大變ゆつたりする、併し斯う云ふ事は無理にしなくつても、先づ是で緩みが付いて居りますから、息をするにも差支なく樂に出來る、昨晩急に思立つてこんな物を拵へさせて見たのです、下の方の止めも若し是では締りが惡いと思つたら、此處に附紐を附けても差支ない、併し附紐をつけるなら成べく下の方へ下げて附けて置くやうにする、先づこんな風にして此上へ羽織を着せても少しも關はない、近頃神武天皇さんの御像を畫いて出版して居るが、丁度あゝ云ふ古代の服即ち神武天皇さんの着て居らせられる物のやうにしたら小兒には着好いだらうと思ふ、

極くつまらぬ事を長々申して濟みませぬが此小兒服の仕立は胸を壓して酷い甚だ害があると氣が着いて二三人に其事を話して見たがナカ／＼行はれない、

ソコで丁度婦人衛生會があるから、是は幸ひだから皆さんに一つお話して見やうと思つて、それには何か材料を持て往つて御目に懸けながら御話しやうと思つて、殊更にこんな物を急に思立つたのです、是は先づ雛形だけですが、併し又衣服に就ては私のは男の考で、どうも裁縫の事に就ては智恵が淺い、丁度猿が人間の眞似をするやうなものですから、一つ皆さんの御經驗ある方へ御相談願ふと丁度好い折柄でありますから今日出ましたのです、婦人衛生會員中の方には七ツ八つ位のお子さんのおありになる方もあらうと思ひまして、ホンの雛形を御覽に入れたのでありますが、どうも此着物が關係を及ぼす所は廣いもので、男のお子抔には着物から活潑さうなのを着せて置くと、從つて精神が活潑になる、衣服と云ふものは寒暑乾濕を防ぐのみの爲めならば、どうでも宜さゝうなものですが、ナカ〳〵さうでもない、是は餘程難かしいものです、況して男の子は飛廻る者ですから、是までの日本の衣服の仕立方では直ぐに此前がはだかつて仕舞ふ、さうすると何時も此襟先の方を引張るから、段々斯う首を前へ前へと引いて、おじき腰の習慣になつて仕舞ふ、寔に體の格好の宜くないものです、其れに此縫上げが重りますから、男の子が方々奔走する中に段々上へたぐり上つて、下の方がパッと開いてしまつて足の方が寔に寒い、

どうか私の希望はあなた方の御知己の中に、お子さんがお生れなさつたら、能く此胸を押へる事が恐いと云ふお話をなさつて、着物を段々改良するやうにして戴きたい、私も色々やつて見ましたのですが、どうも男の考でナカ〳〵旨く出來ませぬから、あなた方のお内から裁縫に御經驗のある方なら尙結構ですけれども、御申合せなすつて五人なり十人なり、

調査委員と云ふやうなものをお設けなすつて、其方く々が色々な雛形を御持合せなすつて、是は好い面白い形だから是を採用して拵へて見やうと云ふやうに、御決議に爲つて、さうして今年でも、來年でも、再來年でも宜しうございます、急にどうしやうと云ふ事は私は望みませぬから、日本の子供の衣服改良と云ふことを爲つて戴きたい、先程もお話申します通り、文人の鉢の中で育つた植木は地に下したつて大きくなるものでございませぬから、何でも人間も子供の時から七ッ八ッ先づ十位迄の殊に體の伸びる盛りは體をゆつたりさせてズーッと伸びるやうに、せねばならぬ其れを私は希望致します、

毎日診察中に心付きました子供の衣服の所感を、丁度好い折柄でございましたから下らない事ですが、長々と御話致しまして御無禮申しました、まだ項を分つてお話すると宜しいのでございますが、何ぶん御覽下さる通り寒氣はしますし、咳が出まして御話がしづらうございますから、又此次ぎ好い折がございましたら御話することに致しまして、今日は之で御免を蒙ります　（完）



肺病豫防養生法（第九）

醫學士　竹中成憲君

肺運動法

兩肩を後の方へ反し胸を廣げる樣にすべし又息を深く吸ひ込み又遠く吐き出して肺中の空氣を替らしむべし初は仲々骨の折れる樣なれども再三爲す時は少しも骨の折れざる樣になるなり

右は窓、戸を開きたる室内に於てなし得るを以て出

求難き運動にはあらず然れども前に述べたる愉快亦利益を伴ふ運動としては左の如きものなり

一弓は胸を廣げる爲めに良し胸擴がれば肺に利あり

一笛、喇叭、尺八は肺運動として良し

　但し病既に發したるものは中止すべし

一能（謠）、義太夫、長歌、吟詩、唱歌、讀經も肺運動として良し

　但し病既に發したるときは注意して行ふべし

女子は唱歌亦は父母の許を得たらむには義太夫を良とす

義太夫は野卑、猥褻に渉る事多し然れども其然らざる所を拔粹せば深閨の令嬢に適すべきもの饒多あり實に紋左衛門の如きは我國の文學者として愧ぢざるもの也

然れども今壯年有爲在學の諸君をして上記のものを直ちに實行せしむる事難し例へば諸君をして直ちに跳り謠をうなり、義太夫を語り拳を打たしむる事能はず何となれば是等は言ふべくして行ひ難き也然らざれば諸君をして游蕩、懶惰所謂道樂息子と化せしむる事あるべければなり是等は世を渡るべき一通りの素養を整ひたる人（換言すれば大人）のなすべき事と覺りて他の幼年諸君に適當なる運動に考へ及ばざるべからず

凡そ左のものは諸君に適合すべし

身體運動としては

一學校より命ずる總ての體操運動

一歸宅後の市內散步

散步も目的なくむば爲し難しと述べたれども此風を養成するは容易なり外國人は目的なくして能く此散步を爲す

一每朝夕室內の掃除

一用事ありて外出するときは決して車に乘らざる事

車に乘るときは之に對して車代を支拂ふは當然なり而して人は好んで金錢を支出するものにあらず然るに車に乘るは其理由左の中の一なりとす

(甲) 本人惰者にして歩行を好まざるか若しくは

(乙) 多忙にして時間を惜む

予をして在京せしむれば(乙)の方針を採らざるべからず在京在學諸氏就中幼年諸君は(乙)の眞似を爲すの必用なし乘るとすれば諸氏も(甲)と認定せらるべし人は生れて(甲)たるべからず田舍に在ても此倫理(ロヂック)は外るゝ事なし

水泳、競漕(舟ボート)の如きは學校にして其準備あれば可なり然らざれば自から進んで此事をなすべからず歸朝早々の新學士亦は有望の博士大家にして一朝の水泳に生命を失ひたる不幸否不孝者擇山あり宜しく後進者は之に鑑むべし

自轉車、乘馬等は之を行ふに費用を要す費用を要するものは社會の或る部では適せざるにあらざるも全體に對しては之を賞用する事難し

運動して汗の出づるは宜し凡そ身體より害物を排泄するの道三あり曰く大便、曰く小便曰く汗是なり汗多ければ小便減ず小便少ふして濟むときは腎臟はそれだけ休息する事を得故に汗を作るは腎臟をして休息せしむるものなり(此事は腎臟に病あるもの忘るべからず)

○○○肺運動としては唱歌及び前に記せり深呼吸既に肺重症に陷り運動し難きものは全身の按摩を行はしむると宜し我國の按摩法は上より下(遠心的)へと擦するも外國に於ては下より上(求心的)へと擦するなり外國の風學理に適へり之を用ふべし醫學上按摩を「マスサーヲ」といふ佛國語なれども一說に

支那音「磨擦」より來るといふ）
○○○婦女子なれば幼年たりとも機を織ること宜し
肺運動としては前に述へたる深呼吸を爲すべく又唱歌を賞用す

（未完）

肝油を臭く無く飲む新發明

出獄人保護者　原　胤昭君

私は毎度諸方の音樂會や慈善會の木戸番で皆樣方にお目に掛る者でお醫者でも無し衛生學者でも無し、それが衛生雜誌に筆を走らせる譯は無いのですが、私も人間一人であるから身體壯健で世の中のために澤山働きたいものだと云ふ事だけは知つて居ります、

そこで人の噺を聞くと肝油は大層强壯劑になると、聞くよりも實際に見て左樣確めましたとは監獄の囚人が肝油を用ると著く健康を復すのは素人眼にも能く知れましたから私も年來飲用して居ります、

併し一向にきゝめを感じません、それは私の健康に未だ瑕の入らぬ仕合なのだと思ひます、兎に角此の四年計は診察を受けた事は無いのでございます、處へ前號の衛生雜誌に肝油の效能が記してあつたので大に又力を得ました、

さて此の飲み始でございますが、御承知の通り肝油の惡臭は鼻持ちのならぬものです、前號に其飲用法の御指南もありましたが、中々彼の法では臭くて飲めません、こゝに私の獨得明法新發明があるのでございます、

調藥家の用るガラス製の試驗管（價三四錢）を用て飲むのです、試驗管には太い細い大小がありますから飲む肝油の分量に從ひて其器を買入れ之に肝油を注ぎ深く口中に入れ舌の奧、咽喉の間近に當て其

儘にて仰向きになり喉に流し込む、つまり肝油を口中に散亂させず、食道直達といふ法を取るのであります、

私は毎朝身支度を整へて後直に湯の一口も飲みて喉を潤し而て肝油を飲みます、三十分乃至一時間の後朝飯を喫します、云はゞ一日の食量の一番下た積みにしますから惡い噯の出る杯の嫌もありません、何にしても追々量を增すとも始は少量に限ります、孰れかならば飯後適宜に運動するを宜きやうに思ひます、

ドウカすると食道直達をやりそこね惡臭を散らすことがあります其時はチョイト香物（漬物）を一片喰べるが宜しくあります、

私は毎日入浴致します、是は衛生法からで無く江戸ッ子癖でありましたが前號に肝油飲用と入浴必要の記事を見て丁度宜しかりしと思ひました、

年中おつ通しには飲みません折々一週間二週間位休みます、

私は性來煎茶を好みますが、肝油を飲むで四五時間過ぐると濃い茶が欲しくなりますのは肝油が促すやうに思はれます、成丈け飲まぬやうに致て居ます、若しも此の飲用法の新發明が御用に達ちまして御丈夫におなりの御方樣は私が御館へ罷出でました時には好い御茶の御馳走を願ひます。



皮膚病の話（其七）

在大學　T. O.

最早や紅葉の時候も過ぎ去りて、是より追々冬の寒氣に向ふことゝなりたり、從つて我々も之れより習

くの間は、強敵即ち寒氣と戰はねばならぬのである、其間には我々の皮膚は此の寒氣の爲めに屢々損害を被ることあるべし、啻に寒氣のみならず、之を防ぐ爲めに我々が用ゆる所の火までが、屢々我々の皮膚を犯す場合があるなり、實に冬の日は我々の皮膚に向つては誠に難儀な時候にてあるなれど、去りとて人力にて冬を地球より取り除くと云ふ譯にも行かざれば、我々は出來得る限り注意して、此等の寒氣なり火なりに皮膚を犯されぬ樣、若し又不幸にして犯されたる場合には早速適當の治療を加へて大事とならざるより心掛くる事肝要なり、

さて皮膚の火氣の爲めに犯さるゝを火傷と云ひ、寒氣の爲めに犯さるゝを凍傷と云ふなり、今先づ火傷の方より御話しせんに

火傷

と云ふは讀んで字の如く火に由て皮膚に傷を附くる事なれど、去りとて火傷を起すは啻に炭の火、ランプの炎の如き類のみにはあらで、熱湯も火傷を起せば、種々の藥品、譬ば硫酸、硝酸、鹽酸の類も、又火傷を引起すなり、

さて此等の爲めに起りたる火傷には、極輕くして別に左程の苦痛を與へざるものもあれど、多くは其場所が紅色を呈して少しく腫れ上り、之れに加ふるに疼痛ありて、日を經るに從ひ此等の症狀は追々と消失するものなり、此等は先づ輕き方の火傷にて、之れより少しく重症のものとなれば、紅色の部分に水胞を生じ、此の水腫は漸次變じて痂皮となり、終には之れと亦た剝離して、元の皮膚に復するものなり、

なほ重症の火傷にては、其の部分に痂皮を生じ、此等は終に膿を持ち、且つ潰れて、治癒せし後ちと雖ども、此の部分は必ずひつつりを殘すものなり、

火傷には上に述べたる如く、極く輕きものより重きものまでの間に種々の度合あれど、火傷の人身に及す危險は、其の輕重よりも寧ろ火傷せし廣さに由るものにて、譬へ重症の火傷にても極少部分のものなれば、決して生命に關する事なし、之れに反して左程重からぬ火傷にても、皮膚の半分以上を犯したる場合には、患者の生命は到底之れを繋き止むる事能はさるを常とす、

火傷の療治は其の數至て多く、到底悉く列擧し得べきにあらざれば、玆には只だ最も効能多くして且つ輕便なるもののみを述ぶることゝなせり、

輕症の火傷には「チレーフ」の油最も良し、之れを火傷の部分に塗り置けば、痛みも少なく、治癒することも速なり、「チレーフ」の油なければ椿の油にても良し、亦た胡麻の油にても良し、西洋にては鹽を混ぜぬ「バタ」を用ゆる由なれど之れも至極妙なるべし、更に此等の油は出來得る限り清潔なものを選ぶべし、極輕き火傷なれば油を用ゐるまでもなし、飯粒を半紙にのばして貼付し置くも可なり、

少しく重き火傷にて水胞を生じたる場合には、縫針なり止針なりを三十倍位の石炭酸水中に投じて消毒し（石炭酸の間に合はぬ場合には火にて針の尖きを赤くなるまで熱して後ち之を冷して用ゆるも可なり）之れにて水胞の內に差込み、內なる水を出して後ち、十%の硼酸軟膏を貼付し、其上に繃帶を施し置くべし、尚ほ良き療法は同じく針にて水を出して後ち、ガーゼ或は綿に次の藥を浸して火傷の上を包むにあり

亞麻仁油
石灰水　各五〇、〇

斯くして後ち其上を油紙にて覆ひ、油の浸み出てぬ様に爲し、更に此の上に繃帶を施し置くなり、

重症の火傷は到底素人療法にて治癒すべきにあらざれば、速に醫師の許に馳せて、其の治療を請はるべし、實に火傷は其の療法惡しければ幸にして治癒せし後ちと雖も、其部分に强きひつつりを殘し、啻に外見の惡しきのみならず、身躰の使用に尠なからぬ不便を感ずるものなり、火傷の爲めに手足指などの曲りたる人なとや、首の曲りたる人、口の縮少したる人などは、屢々諸姉の目擊せらるゝ所なりと信ず、

凍　傷

凍傷も又火傷と同じく輕症のもあれば重症のものもあり輕症のものは即ち

しもやけ

にて之れは別に記者が玆に述ぶるまでもなく、冬になれば。大抵の人は。之れに罹ることとなれど、其の最も多く出來る處は手、足、耳、鼻、頬などにて、丁度豆粒位から、五十錢銀貨位の大きさの紫紅色の斑點を生じ、指にて觸れて見れば、此處は他より少しく高く、其周圍は一面に紅色を呈し居るなり、患者には、しもやけのある部分は、何となくほてりて、殊に夜分抔には、此部分搔痒を感じ、甚しきに至りては、何とも辛抱の出來ぬ程かゆきことあり、

しもやけが少しく重くなれば、終に腫れ上がりて水胞を生じ、之れも又破れて、其部分に潰瘍を生ずるに至る、

凍傷の重きものにありては。其部分は終に壞疽に陷り、皮膚は勿論肉も骨も取れ去ることあり、斯の如きは、前年日清戰爭の際、遼東半島に奮戰せし兵士に、屢々見たる處なり、去れど此等は、家中に起居し給ふ婦人方には先づ無き事として可なり。

しもやけの治療は顔手などに出來し場合には、清潔

なるアルコールを、綿或は布片に浸し、之れにて其の上を拭ひて後ち、左の膏藥を塗り置けば可なり。

カンフル油　一、〇
ラノリン　一〇、〇

足に出來たる塲合には、ルゴール氏溶液尤も効能あり、此液の處方は左の如し、之れを筆にて每日一回ッヽ塗り置くべし

沃度
沃度加里　二、〇
蒸溜水　三〇、〇

しもやけ潰れなば、五%の硝酸銀軟膏尤も効あり、併し此藥は劇藥なれば、醫者より貰ひ受けらるべし

しもやけと云へば、素人は誠に經き病の如く思ひ居れど、其實決して安心すへき病にあらず、しもやけの出來し跡より種々の難症の皮膚病を生ずること少なからざるなり。

重き凍傷は、迚も素人療治の能くすべき處にあらざれば、醫師の治療を請はるべし、若し之を放置せば終に生命を失ふこともあるべし、

しもやけに似たるものにて、ひゞ、あかぎれの二つあり。

ひび

は矢張り寒さに由りて起る病なれど、之れは皮膚が犯さるゝにはあらで、皮膚の内にある、皮脂腺が寒氣の爲めに犯され、從つて皮脂の分泌減少し、皮膚が干燥する爲めに起るなり、之れが烈しくなれば終に裂創を生ずるに至る、之れ即ちあかぎれなり、

ひびの療法は、前號にも記載しありしが、ベルツ氏水と云ふ藥尤も良し、此の藥を二三滴から五六滴程手の平に落し、之れを額なり、手なり、ひびのある部分に擦り込むべし、ベルツ氏水の處方は左の如し

(前號に出でし分量よりは此分量の方よろし)

苛性加里　一、〇
アルコール　四〇、〇
グリスリン　四〇、〇
薔薇水　一二〇、〇

其他又五%の硼酸ワセリンも、亦た効能顯著なり、

あかぎれには、硼酸ワセリンを、布片(リントなれば尚良し)にのばして、貼付し置けば可なり、市中の賣藥店にて販賣する、熊の膏藥と云ふ黑き膏藥も又た効あり



乳房と子宮の病に付て

Dr N. N.

人間の身躰には、種々の道具即器官がありて、此等は皆な夫々特別の働きを營みつゝあるなり、譬ば心臓は絶えず伸縮して、血を身躰中に送り、腎臓は絶へず小便を送りて、人躰の不用物を取除き、胃、腸の如きは喰べたる食物を消化して、之を人躰の成分と為すが如き、之れなり、

さて此等種々の器官は皆な病氣に罹り得るのである、譬ば心臓病と云ふは心臓の病氣、腎臓病と云ふは腎臓の病氣、胃病と云ふは胃の病氣なるが如し、此の事は男子にても、女子にても、皆な同じ事にて心臓病患者、腎臓病患者の如きは、男子にもあれば女子にもあるなり、併し男子と女子とを比較すれば、女子の方が男子よりも病氣に罹り易き器官が二ッ丈け多いのである、夫れは即ち乳房と子宮であ

る、勿論男子の身體にも乳房もあり亦た女子の子宮に相當すべき器官があるのであるが、男子にては、此等の發達が頗る悪しく、従つて病氣に罹る事も殆んどなしと云ふて可なるのである、

乳房と子宮の二つは女子の器官の内でも、最も病氣に罹り易い器官であつて、乳房炎と云ふて乳の腫れて膿を持つ病や、乳癌などは、何處の外科病院にても一日に一人二人來院しない日は、ない位いである、

亦た子宮の病　之れが婦人には甚た多い、婦人が十人集れば、其内に内膜炎を煩ふ人が、一人や二人はない事は殆んどない、其他子宮が前に屈するとか、後ろに屈するとか云ふような病も甚た多い、亦た子宮に出來る腫瘍、之れが亦た甚た尠なく、其の他種々の子宮病を數へ立つれば、殆んど限りなきことである、兎に角女子は此の乳房と子宮の爲めに、終生苦勞をせねばならぬ、然し之れは造物主の造りたる事にて、今更ら何共致し方なき次第なれば、せめては平生より注意して、此等の病氣に罹らぬよう、亦た万一不幸にして此等の病氣に罹りたる曉には、速に適當の治療を加へることを怠りてはならぬである、夫れには是非とも乳房の病なり子宮の病氣がどう云ふものであるかと云ふ事を、豫め承知し置く事が必要であるなり

子宮の病

子宮病の御話を致すに先ち、子宮とはどう云ふものであるかと云ふ事を、手短に御話しすべし、

子宮と云ふは、肉の塊から出來て居る嚢狀の器官で、腰骨の中の方に位し、前には膀胱即ち小便の溜る袋があり、後ろには直腸と云ひて、大便の出る管があるので、此の子宮の中にて人間の卵が生育するのである、つまり人間は大便と小便の間で生育するものなのである、子宮の形は丁度西洋の梨子のや

うな形で平生は左程大ならざれど、姙娠すれば漸次肥大して、腹の上からも、容易く觸れ得るようになり、終には臍のづつと上までも、肥大して來るのである、子宮の内側には、子宮内膜と云ふ膜が附着してある、之れが病氣になると即ち之れを内膜炎と云ふのである、さて前に述べたような構造を呈する子宮の病氣の内で、多も多いのが内膜炎である、從つて先づ内膜炎から御話しすべきであるが、内膜炎に付ては、前號の誌上にも少しく記載しありたれば、之れは跡廻しとして、先づ子宮に出來る腫瘍の事より御話しすべし」

子宮の腫瘍

之れにも種々あれど、最も多きは、子宮筋肉腫と、子宮癌の二つなり、

子宮筋肉腫と云ふは誠に多き病にて、婦人百人に付三四十人までは必ず筋肉腫を持ちて居ると云ふことである、併し之れは割合に性質のよいもので、其の出來處がよくて、餘り大きくなければ、別に患者に害を及ぼさないのである、實に已れが筋肉腫を持ち居ることを知らざる人が甚だ多いのである、亦た餘程大きな筋肉腫でも、別に患者に苦痛を與へぬがある、此の事に就て一つ珍らしい話がある、序でなれば茲に御話しすべし、夫れは八十何歳と云ふ女隱居であつたが、まだ三十代の頃から、腹の中に瘤が出來たのを感じたるが、別に苦痛も與へざる故に其儘に爲し置きしに、年々と肥大し、六十歳の頃には丁度大人の頭大程の塊を腹の上より觸れたるよし、されど當人は至つて平氣にて、氣分も良ければ、食慾も進み、元氣の良きこと、若きものも及ばぬ程なりしと、其後瘤は別に肥大する模樣も見へざりしが、元氣は不相變至つて良く、終に八十何歳に至り、何の苦痛も無く、眠るが如く往生したるよし、

遺族は之を火葬に附し翌日骨上げに到り見しに、遺骨と共に大いなる石の殘留し居るを發見せしかば、大に驚き、早速懇意の醫師を招き、其人の手を經て、大學の山極醫學博士に鑑定を請ひしに、之れは全く子宮筋肉腫の大いなるものにて、之れが化石せしこと明かとなれり、

上述の如く全く患者に苦痛を與へざるものもあれど、中には亦た種々の症狀を呈して、患者を苦めるものもある、筋肉腫で一番困るのは、血の下ることゝ、痛むことである、血の下る具合は、丁度月經と同じようで、只だ血の下り方が多い丈けのものもあれど、時とすると月經の時は勿論、其他の時でも、絶へず血が下るのがある、之れが餘り永く續くと、終には身體の中の血が減少して、其爲めに生命を失ふことがある、痛みは始めの内は只だ月經の時に强く痛む位であるが、若し筋肉腫が子宮の內側に出來たる場合には、丁度お產の時と同じような痛みを感ずるものである、亦た筋肉腫の爲めに、種々の子宮の病や、卵巢の病などが、併發すれば、患者は絶へず痛みの爲め、苦しめらるゝのである、如斯血の下るのと痛みの爲めに身體は段々に疲勞し、其上に神經質となり、氣分も惡しければ、食慾も進まず、夜分も碌々安眠することも出來ざる爲め、身體は益々弱りて、終には生命を危くすることもあり、其他亦た筋肉腫の出來所に由りては、其肥大すると共に、下腹が張るような感じを起し、何となく腰が壓さるゝように思はれ、小便の出が惡しくなり、其上に便泌を起し、甚だしき場合には、之れが爲めに種々の恐ろしき病を引き起すものなり、其他亦た筋肉腫のある人は、姙娠することの出來なくなることもあるなり、

さて此の筋肉腫は、上にも述べたる如く中々多き病

にて、しかも時としては生命をも危くする恐れあれば、上に述べたる如き症狀あるを覺りなば、速に治療を加ふべし、

治療には種々あれど、今日專ら用ゆるは、藥液の注射と、外科的に筋肉腫を取り去るとの二つなり、此二つの內何れが良きかは、之れの出來たる塲處や、大小などに依り異なるものなれば、よく專門の醫師に就て問合せらるべし、只だ茲に述べ置きたきは、筋肉腫に注射療法を施すに當りては、決して一回二回の注射にて効を奏すべきに非らざれば、二十回なり三十回なり、或は五十回なり百回なり、醫師の之れにて充分なりと云ふまで、治療を受けらるゝこと必要なり、記者の識れる某婦人は、筋肉腫の爲めに強き下血を起し、一時は頗る重症に陷りしが、記者の勸めに從ひ、某婦人科專門醫の注射療法を受け、三年間殆んど一日の如く治療せし効空しからず、昨今にては、最早や少しも下血なく、身體も頗る強壯となり、昔日とは殆んど見違ふ程の容體となれり、

種痘に就ての注意

丁度例年天然痘の流行する時期となりたれば、東京府にても、過日來諸處にて、種痘を施行して居る次第であれば、此際未だ種痘を施さない乳兒或は旣に一旦種痘を施したる小兒にても、其後旣に三四年を經過したるものには、此際是非とも種痘を施すことを怠りてはならぬのである、今ま左に種痘に就ての注意二三を述べ置くべし、

第一　種痘の適否

種痘は離れにても施して宜しきやと云ふに、決して左樣にあらず、我が內務省の規則では左の如く定めてある、

一　生後七十日を經ざる者
二　種痘の爲めに一時增進すべき病患ある者
三　丹毒流行の土地に居住する者
四　蔓延性の皮膚病ある者
五　熱性病に罹り居る者

此の五項の內、第一項は別に御話しをするまでもなし、第三項は丹毒が種痘を施したる所より傳染する恐れがあるから、餘程注意を要する事である、第二第五兩項は、氣管支加答兒とか、百日咳とか、チフスとか、麻疹とか云ふ類の病に罹りつゝある子供には、種痘を施してはならぬと云ふことにて、此等の子供に種痘を施せば、其の爲めに病勢を進ましめ、甚だしきに至りては、性命をも危くすることがあるからである、第四項はよく子供の顏などに出來る、飛火又たは腋の下股間などにたゞれのある子供には、種痘を施してはならぬと云ふことで、總て此等の病あれば、先づ醫師の治療を受けて悉く之れを治癒して後ちか、或は假令全癒せざるまでも、醫師が認めて差支なしと云ふまでは、決して種痘を施してはならぬのである、

第一　種痘の用意

之れに別に六ヶ敷き事はなし、只だ種痘兒は當分沐浴せしむる事能はざれば、種痘の前日には、必ず沐浴せしめ、又た衣服殊に下着は清潔なるものを着せしむべし、

第二　種痘中の心得

大學の小兒科には種痘を受けし人は、皆な承知の事なるべけれど、同科にては種痘を施して後ち、附添人に與ふる書附には、左の如く認めてある

一　面部手先を洗ひ又は腰湯をするは妨なしといへども種痘疱をぬらす可らず
一　衣服殊に襦袢は垢付かざる物を着すべし

一種痘疱を摩擦或は搔破又は痂を無理に剝かざる樣心を付くべし

一熱の強く發るか又は他の腫物を發する事ある時は直に醫師の診察を請くべし

第四　種痘の經過

種痘を施して後ち、始めの二日間は左程の變化なし、第三日目には針跡の部分に小き紅點を生じ、指にて觸れば少しく隆起せるを覺ゆ、第四日目には此部分は益々紅色となり前日に比すれば硬くして圓形或は楕圓形の結節を生ず、第五日目には此の結節變じて小き水泡となり、其の周圍は赤味を帶ぶ、第六日目には水泡益々大となり、其の中央少しく陷凹を生ず、第八日目には水泡充分大きくなり大凡そ豆の大さ位となり、其周圍は赤く腫れ上り、小兒は多少痛みを感じ、屢々少しく發熱することあり、亦た腋の下にグリグリを生ずることあり、第十日目には水泡化膿し、第十二日目より追々かせ初め、其色も亦た褐色に變じ、終には黑色となる、之れと共に其の周圍の紅暈も亦た消滅して、第二十日目乃至二十二日目には、痂皮も亦た剝離し、其跡に瘢痕を殘すものなり、

第五　種痘の感ぜざる時の注意

初めて種痘を施せし子供に種痘が附かざりしとて、決して安心すべきにあらず、之れは或は痘苗の惡しきにも依るべく、或は亦た他の種々の原因にも依るべければ、必ず三四週後再び種痘を試むべし、



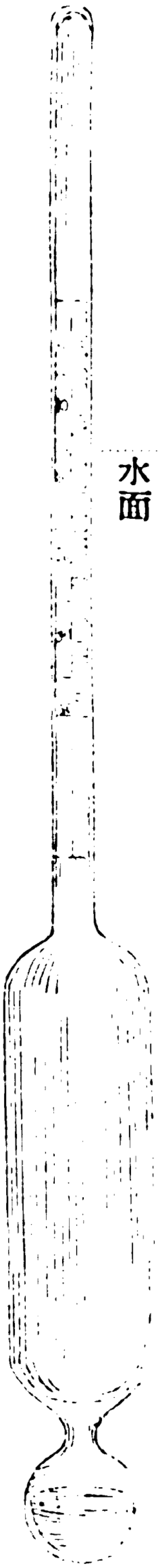
看護法

普通看護法（第五）

在大學　[illegible]

尿の比重を計る事

比重と申しますのは御存知の通り茲に或液躰がありますと此液躰が其と同じだけの容積の水に比べて如何位重いか輕いかといふ事で御座います、尿の比重を測りますには尿比重計を用ゐるので御座いますが、此はガラスで出來て居りまする管で御座いまして、上の方が細く中程が太く下の方が少し絞れて其尖に球が附着て居ります、此球の中に水銀が入つて居ります、上の方の細い所には中に目盛りをした紙が入つて居ります此比重計の細い所を持ちまして球の方を下にしまして靜に尿の中に浸るので御座います而して此比重計の目盛りの何處まで浸つたかといふ事を見るので御座います其の目盛りの處の數に一〇〇〇を加へるので御座います比重を取りましたらば之を躰温表の尿比重の處に記入致しましてから尿比重計を尿より取り出し水にて洗ひて後收ひ置くので御座います、通常買つて居ります比尿計にはガラスの圓筒がついて居りますから此中に尿を入れて其中に比重計を浸ければ一層便利で御座います、左の圖は



私の使用して居りまする尿比重計で御座いますが、横に引いて御座いまする線を假に尿の面と致します、丁度15の處迄浸つて居りますので御座いますから、此尿は比重1015の比重を持つて居ります、健康な人の尿は1010から1025位な比重を持つて居ります勿論これは水を1000としての事で御座います尿比重の輕くなる病は萎縮腎等で御座いまして、重くなるのは糖尿病や腎臓病や熱病等の人の尿で御座います、

尿の色を驗る事

健康な人の尿の色は極く透徹つた黄色で御座いますが、此が病氣の種類に由り色々な色となります、例へば黄疸の人の尿の色は黄褐色にて之を震盪ますと、黄色い泡沫が立ちます、又尿に血が混ざつて居りますと桃色から紅色になります、又石炭酸や「ザルチル」散等のやうな藥に中毒た時には尿が緑色或は黒色となりますから患者の放尿後は尿の色をよく驗て置く事が肝心で御座います、若し上のやうに色々な色を呈して居りましたらば、醫者に通知せる事を忘れてはいけません、

尿の溷濁する事

健康な人の尿は透明つて居りますが、病氣に由りては尿が濁つて居る事が御座います、勿論冬の寒い日には健康な人の尿でも放尿後暫く經過つと濁る事が御座いますが、斯の如きは温き處に置きますと直透明つて參ります、

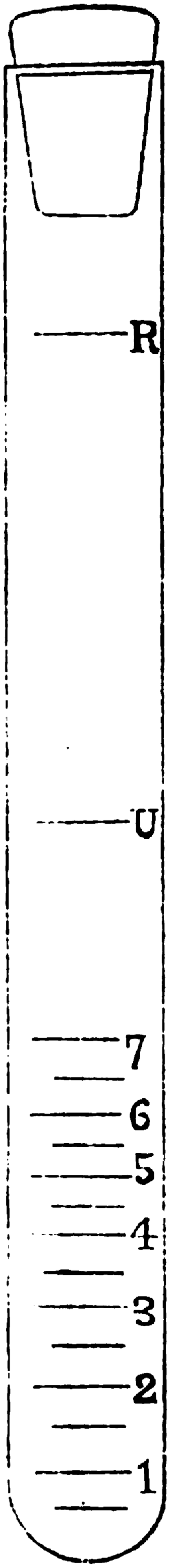
尿の反應を見る事

尿の反應と申しますのは、尿が「アルカリ」性か或は酸性かといふ事で御座いまして、之を驗ますには「ラクムス」紙と申します紙片を尿の中に浸ければ直分明ります、「ラクムス」紙と申しますのには青いのと赤いのと二色御座いまして酸性の尿なれば青い方

の「ラクムス」紙を入れますと赤くなり、「アルカリ」性なれば赤いのを入れますと青くなります、赤い方を入れても又青い方を入れても少しも變色しないのは、此は尿が酸性でも又「アルカリ」性でもないので御座いまして斯ういふのは之を中性の尿と申します、健康な人の尿は酸性で御座います、尿の反應を驗ますのは通常醫者が驗る事になつて居りますから看護をなさる方は醫者の特別の命令がなければなさるには及びません、

尿の成分を驗る事

病人の尿には色々な異成分が混ざつて出ます、其中尤必要なのは蛋白質と砂糖で御座います、蛋白質の尿に混じますのは腎臓に病がある證據で御座います、勿論健康な人の尿でも極少量の蛋白質は混ざつて居るので御座いますが此は中々通常の方法では分りません、尿の中に蛋白質のある無しを驗定致しますのは醫者の仕事で御座いますが、既に腎臓病の人で其尿に混ざつて居る蛋白質の日々の増減を驗るのは看護をなさる方を煩はす場合が御座います、故に若し醫者が依頼を致しましたらば、每朝尿量、比重等を計つた後で尿の一部を取り其蛋白質を驗なければなりません、是にはエッスパッハ氏の蛋白計を用ゐます、此器械は通常化學の試驗の時に用ゐまする試驗管のやうな形をして居りまして、其口の處にはゴムの栓が嵌つて居ります、此管には度盛りがして御座いまして一番上の度盛りにはRの字が書い



て御座います、其次にはUの字其から其下には7 6 5 4 3 2 1と度が盛つて御座います、偖此器械のUの字の處まで尿を入れまして、其上にRの字の處迄試藥を入れるので御座います、試藥の調劑法は少しく複雜て居りますから此は醫者から御貰ひになる方が宜しう御座います、試藥を入れて後栓をして此蛋白計を靜な處に立てゝ置きますと翌朝になつて蛋白計の底の處に黄色い沈澱が沈みます、此沈澱がどの目盛りの處迄有るかといふ事を驗て之を温度表の最も下の行の處即ち摘要と書いてある處に記入するので御座います、

尿の中に砂糖の出る病は之を糖尿病と申すので御座います、是も日々の砂糖の分量の增減を吟味するのは必要で御座いますが、此は少しく復雜つて居りますから、醫者に一任する方が宜しう御座い升、尿の檢査は誠に必要な事で御座いますが、病氣によりましては強ち檢査をしなく共宜いのが御座います、此場合には醫者の許可を得て之を省略なすつて宜しう御座います、

序で御座いますから申しあげて置きますが、よく病家に診察に參りますと病室の隅に便器や「オシメ」等の置いてあるのを見受けますが、此は甚だ宜しう御座いません、便器は必ず使用の都度之を室外に運びて清潔に致し置かなければいけません、病氣により尿に甚しく臭氣を發するのがありますが假令如何程臭く共、醫師の許可を得ない内に臭氣止の藥等を投入するのは禁物で御座います、

前號雜誌中の正誤

十九葉	下欄	十一行	三字目	胞は腫の誤
同葉	下欄	十行	八字メ	はは除くこと
二十一葉	下欄	十一行	六字メ	線は腺

二十三葉	下欄	六行	十一字メ	倍は位
二十四葉	仝	六行	十八字メ	にはの
二十四葉	仝	十五行	六字メ	ははの
二十五葉	上欄	三行	十四字メ	ゞな入ろ
二十七葉	仝	二行	二字メ	表は二
二十六葉	下	一行	一字メ	ははい
二十九葉	仝	二行	二字メ	にはの



内外實用料理法（第二）

横井たま子

鹽の、あく、ぬき方

鹽一升に付き水八合位の割合として始め玉子の白身（大なれば半分、小なるは一個）を鍋に入れ箸にて泡立たせ水と鹽を入れ火にかけ、煮立てば、あくは、上に泡と共に浮上る故それを、金杓子にて掬ひ取り而して氣永に煮つめて、大皿か、又は瓦らけに灰を山に盛り其上に美濃紙を引き置き、其中へ、鍋底に沈みたる、鹽を、杓子にて掬ひ上げては掬ひ込むなり、さすれば水は灰に吸込まれて鹽のみ、紙の上に殘り淸淨なる鹽と成るなり、上等の吸もの其他の食鹽に用ゆるには燒鹽杯どの當底及ぶものにあらず、

砂糖の、あく、ぬき法

此あくぬき砂糖は料理に用る味淋に代用す、砂糖は黒砂糖、天光、花見、三盆、其他いづれにても仝し上等には、ザラ目と稱する砂糖を用ゆべし之は價も廉にして最上には之にしくものなし、先砂糖の、あく、を取る仕方は砂糖一貫目までは玉子の白身を一つ用ひ五百目までは半分にてよし水は百目につき一合位の割合にて始めに鍋に玉子の白身を入れ箸にて泡立

たせ水を入れ其中へ砂糖を入れて火にかけ焼つかざるやう時々かき廻し煮たてば少し水を入れて沈ますれば、あくは鼠色となり泡と共に浮び上るなりそれを掬ひ取り而して鍋をおろして其上に紙を張り置き他の器物にうつし取れば、あくは、悉く其紙に着きて取れるなり、さすれば透明りたる蜜の如きものとなる、又砂糖の着きたる紙は水にて洗ひ落し前に掬ひのけたる、あくの糟と共に少しの水にて煮立て絹篩にて漉せば、二番の砂糖汁を得るなり、此二番は別に取りて置き惣菜用、又は吸ものゝ具やすべて料理の下煮杯に用るなり、而して一番二番ともに瓶に入れ夏分は冷水にひやし置きて貯ふべし、一番取りの方は冬分なれば二三周間位は保つべし凡そ料理の中に味噌類、其他ゆるめねばならぬ料理にも味りんあらずとも此あく、ぬき砂糖に鰹だしを用ゆれば大に輕便となり、且つは、鹽と砂糖の店さらしの不潔物を取り去り水にて洗ふとも出來ざるものとして用ひたりしも斯く為せば之も清浄になり衞生にかなふべし、

紅葉豆腐

豆腐の水を布巾にてよくしぼり麥の粉を摺り交ぜ赤蕃椒のたねを取り去り砂糖にて永く煮つめ細かに刻み又時の物故柚子の皮を針の如くにきざみ二品を豆腐の中に程よく交せて豆腐一挺か半挺位の大ひさの形にして胡麻の油にて丸あげにして後ち、蒸して小口切にして椀に入れ(客には湯でゝもよし)白味噌を摺り、あくぬき砂糖にて加減をし鰹だしにてゆるめ、而して鍋に入れて温め、置き味噌、にして客に出すべし、但し味噌のゆるさは葛のあんかけ位にすべし、

置き味噌とは豆腐の上に懸ける事なり

菊びしほ

きくの花のうてなを去り熱湯をかけ酸漬にし水上りたる時き麩を加へ赤蕃椒を細かにきり共によく交ぜ輕く重石をして置くなり、小さき器に盛りて食膳に出すべし食合には時のものにて妙なり、

折衷野菜のスープ

蕪菁、百合根、玉葱、馬鈴薯、慈姑、松茸、獨活、胡蘿蔔、蓮根等（皮ある者は皮をむき根あるものは根を取り大なるものは二つ三つ位の大切りにし小なるものは全躰のまゝ）其他青豌豆、蠶豆、大豆、扁豆等すべて何品にても五六種位づゝを鍋に入れ水を八分に入れ野菜と共に干蝦を少し入れ二時間程も煮立て時に汁の減ぜざる様水を注ぎ鹽氣は蝦より出づれ共また適宜に鹽を加ふべし夏分は冷たる方よろし、又大丼に野菜と汁と共に入れて匙をつけて食卓に供すべし、牛乳、鶏のスープ杯を好まざる者或は病人にも至極よろし

西洋料理

輕便麵包の焼方

麵包を焼くには先酵母を造らざるべからず酵母を造る法は種々あれども其尤も輕便なるものは上白米一合を通常の飯より軟かに炊き冷し置き之に麵一合を交ぜ凡そ二時間程ねかし置きて發酵せしめそれより葎草五匁を水三合の中に舶來の米利堅粉を、二十目加へて能くかき交ぜ次に馬鈴薯、十匁許りを能く湯で、摺鉢にて摺潰し裏ごしの表へ、いもを載せ飯杓子にて押つけるやうに漉してその冷たる所へ前の酵母をよく交ぜて凡そ一時間程經ちたる頃微温湯を注して之を溶かし程合の鉢にうつし確と蓋をして麻糸にて縛り温度凡そ五十度位の所にねかし置くべしさすれば其混和物次第にふくれて酒氣を發し悉く酵母と成るなり一旦此の幾分かを用ゐたる後ちは前の

割合に應じて葎草と麵粉を其酵母の中へ小しづゝ加へて能く交ぜ置けば何度にても之を用ふる事を得べし右の酵母にて麵包五斤を製するには先づ酵母五勺を揑鉢に取りぬる湯一合を注ぎ其中へ米利堅粉六百目と食鹽三匁とを容れなを硬ければ適宜のぬる湯を注ぎ能く捏ね交ぜて小しく濕りたる布巾をかけ一と先之を温度七十度の所へ凡そ入れ置かば酵母より酒氣を發してブツ／＼と瓦斯の泡立ちたる痕跡を殘すものなり此時を度として鉢を取り出し其中にて一旦捏粉を捏直し、圓形又は其他何れの形にても思ふまゝに拵へまた布巾をかけて風のあたらぬやうに爲し竈に火の支度を爲し火の氣を十分强くして此中に入れ凡そ十二三分間燒けば麵包は次第に熱度のために泡立ち段々と膨れて恰好の形に燒上るものなり、

以上の燒方は元極便なる方なれども酵母を造るは素人にはちと面倒なる上に急速の間に合ず依りて更に酵母を造ると同じ時間に麵包を燒くに一層簡便法を左に記るさん米利堅粉一斤の中へ（イースト、パウダー）粉な酵母、之は食料店に備へあり、就て購ふべしを一匁乃至は一匁五分と少許の食鹽とを加へ能くかき交ぜ別に葎草五分を五六勺にてざつと煎じ冷してすこしく温度のある中に前の粉の中へ少しづゝ注ぎ入れ粉を凡そ十五六分間能く捏ね交ぜ適宜の形に拵らへ暖爐に入れて凡そ十分間烈火にて燒くべしさすれば十分ふくれて好き麵包となるなり、但し葎草を加へず（イースト、パウダー）のみにても又麵包を燒き得べきも其ふくれ十分ならず若し菓子パンを製せんとせば右二法の何れにても其粉の中に適宜の砂糖、牛乳、若しくは「バタ」等を加へて燒かば上等の菓子「パン」を得べし

中外彙報

◉日本看護事業の進歩

近着倫敦メールは日本の看護事業の進歩と題し今回の北清事件に付日本軍隊の進行及總べての事情を知悉し殊に日本看護事業に於て多くの看護婦が其特別の智識に於て其活潑なる行爲に於て毫も歐洲婦人に比して劣るなきのみならず其親切周到なるの取扱ひと病院組織の整頓せるとは外國傷病兵の一たび之に入りたるものゝ感嘆措く能はざるなり過去十餘年前までは見るに足らざりし日本看護事業の斯く迄進歩せしは實に驚くに堪へたり云々賞賛せり

◉北海道土人の死因

北海道の土人は年一年に減少して現今にては僅に一萬七千餘に過ぎざるが其病死の原因と云べき重なるものは肺病及赤痢梅毒なりといふ

◉日本學生と獨逸の學生

本年夏期來遊せし北米スタンフオード大學總長ヨルダン博士は日本及獨逸の學生に就き酷評を與へたるが事實又止むを得ざるなり

ビスマークは曾て云へり獨逸の學生の一部分はビールを飲んで死し一部分は唯々書物を讀むに耽りて爲すこともなく頽れて仕舞ひ殘る一部分が全く獨逸の人民となりて有益なるものなりと

余の見る處によれば日本の學生は何時でも病氣顔して喰ひ物が足りぬか着物が足らぬか眠りが足らぬかの如く見え日本の車挽は生涯車を挽き日本の學生は朝から晩まで書物に噛りつき遂に健康を損ね學問を續くること能はざるに至る又多くの學生は卷煙草を薰かして其健康を損ねつゝあり何學科を學ぶにも近道と云ふものなし醫學を學ぶ

には醫者の基礎法律を學び經濟を學ぶには法律經濟と各專門の基礎となるべき「サイエンス」あり日本の學生は學問を急ぎ早く結果を收めんとする風ありかくてはえらい發明えらい事業をなさんこと望むべからず云々

◉石鹸の檢定法

一、石鹸をアルコールに溶かし之に昇汞水を加へて振盪し茲に黄色を呈すれば遊離アルカリの存在する證にてアルカリ多ければ褐色の沈澱物を生ず又フエイルフタンをアルコールに溶して石鹸の一片に灌ぎ其液紅色に變ぜは是亦遊離アルカリの存在する證にして石鹸の良品なる者に非ず

二、石鹸を細片に爲したる後蒸餾水及びアルコールの液中に溶解し其不溶解分多きときは不良品と知るべし

三、石鹸を薄片に截り顯微鏡下に照らし脂肪及は油の細粒の存在を認むるものは石鹸化脂肪の存在するものにして是亦不良品なり

四、石鹸の表面に發汗狀を呈するものあり是は食鹽の多量を含めるものにして純良なるものにあらず

五、石鹸の含水量は平均一六乃至二〇%とす此限量を超ゆるものは不良品とす（工業雜誌二百六號）

◉舊水道と新水道

東京市改良水道の第一期計畫は既に工を竣へ都下百五十萬の市民に給水し得べき都合なれども未だ給水普からざれども新水道は舊水道に比し完全なるべきは勿論のことなるべきも淀橋水源地に於て分析したる所によれば濾過せざる舊水道の飮料水中には一千百餘の有機物を含有し之を濾過したる改良水は同一の水量に於て僅かに三十の有機物を見るに止まり其

差常に非常のものなれば舊水道の水を飲用するの頗る危險を感すべきを以て此完全なる改良水の出來たる以上は人々の可成引用して其便益を受けるべきなり

●牛乳と牛肉

我國牛乳の搾取高は一ヶ年十三万千八百八十六石六斗三合なりと而して之を人口に割り當てるときは千人に付八二六なり又牛肉は千人に付九百斤の割合なりといふ

●醫師の數

本年一月一日現在醫師の數は四万三百八十七人なり之を人口に割り當れは醫師一人に付人口千九十八人に當ると

●產婆と配偶

現在の產婆一人に對し二百三十の配偶に當り分娩數に割り當れば凡そ四十回なりと而して内務省免許の產婆のみを以てすれば一人に付二千五百四十三配偶に當るといふ

●コッホ博士のマラリヤ研究

有名なる獨逸の黴菌學者コッホ博士は久しくニューギニアに出張なしマラリヤ病菌に就て研究されたるが其の結果二樣の療法を發見せり一はキニーネを主として配劑せる藥と他は同博士の發明に係る有毒蚊の撲滅なりと云ふ氏は未だ其の精細なる研究を公にせざれども伯林へ歸着後は遠からず其の報告書を發表すべしと云ふ

●ペストの現況

昨年十一月六日神戸葺合村にペスト患者一名發生せし以來大阪其他に蔓延し或は止み或は發し本年一月七日又一名の患者を出せし以來格別の事もあらざりしが其病菌は未だ全く消滅せず今や第三回目の流行は來らんとす幸ひに大流行に至らざるは氣候の如何

にも因るべけれども又個人衛生思想の漸く發達せしものなるべし初發以來の患者數は左の如し

●第一回(昨年十一月より本年一月まで)
大阪　四十一人　兵庫　二十三人　其他五人
●第二回(本年四月より六月まで)
大阪　五十人　静岡　十九人　計六十九人
●第三回(本年九月より十月三十一日まで)
大阪　三十四人　兵庫　三人　計三十七人
合計百七十八人

◉東京府の傳染病

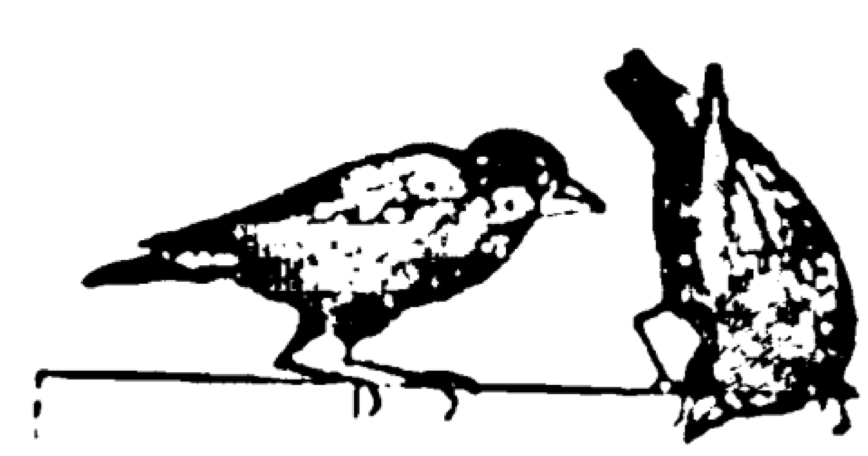
東京府下に於ける一月以來十月末に至る傳染病患者數は虎列剌七名、赤痢七百十二名、腸窒扶斯八百名痳疹三名、疱瘡三名、猩紅熱十一名、實布的利亞七百十三名、合計二千四百四十九名なりしと

豫告

次號には臺灣贊成員松住氏の紹介により人類學に熱心なる伊能嘉矩氏が單身蕃地に入り生蕃の衛生及治病等の事を探究せられたる記事を寄送せられたれば當號に掲載の筈なりしが餘白なきを以て次號に讓り

ぬ

大日本婦人衛生會記事



十一月例會

本月十日第二土曜日午后一時より本會の例會を小石川區竹早町東京府女子師範學校樓上に於て開きたり醫學士山田鉞藏君には清潔法に就き歐米各國の例を引き塗板に圖して演說せられ次に醫學士古川榮君には衣類の洗濯に就き先づ温熱の關係より說き起し延ひて衣服材料の適否及び洗濯に關する諸般の注意を與へられ四時頃散會せしが當日は大學運動會及音樂

會等の催し各所にありしを以て出席者少數なりしが師範學校女學生の多數傍聽せしを以て總員にては二百名以上に達したり役員には濱尾、高木、松平、中濱の諸氏及松前夫人にも參會せられたり仁禮會長には前會以來御病人の故を以て缺席の旨態々中越されたり之を十一月例會の略況とす

●林女子師範學校長には本會十一月例會の爲め快よく同校の講義室を貸與せられ且種々の便宜を與へられたり茲に其厚意を會員に報ず

支會記事

●訃音　新潟支會よりは久しく記事の報告なかりしを以て爾來其模樣を知るによしなかりしが果せる哉尤も驚くべく尤も悲むべき出來事は報導せられたりソハ新潟支會理事なる中野ゑつ子の逝去せられたることとなりき

本會は婦人衞生の爲め新潟支會創設のために其功績少かりぬ中野夫人の逝去を聞きて痛悼の至に堪へず訃音の達するや直に電報を以て哀悼の意を表し且郵書と共に香花料金拾圓を靈前に供へたり

中野夫人の死を悼む

嗚呼　我が新潟支會理事なる中野夫人逝きぬ夫人名はゑつ子幼より英邁溫良にして中野省吾氏に嫁せられし以來よく公私の事に力を盡され特に新潟へ轉住せらるゝや鋭意本會の支部創設のことに熱中せられ今や新潟支會のますく盛大に赴けるは夫人の力與りていと多しと云ふべし夫人此頃懷胎せられしが其經過宜しからず遂に流產のために新潟市なる病院に於て本月十日午前四時俄然逝去せられしといふ嗚呼實に痛悼の至りに堪へざるなり本會は謹みて茲に哀悼の至情を表す

●山形支會例會

同支會にては本月四日例會を山形市なる高等女學校に於て開きしに出席者三十餘名會長副會長にも出席せられ川上醫學士には子宮癌に就て北島醫學士には種痘之注意細谷眞金氏には風眼に就て何れも懇切に講話せられ午後四時散會せりといふ

○山形支會幹事の交迭　幹事國井よしを氏には創立以來幹事の任を負はれしが都合により本年八月以降其職を辭され其後任には丸山千世子推撰せられたり

○山形支會評議員　今回特別會員中より左の人々を評議員に擧ぐ

關　むら子　安村かつ子　沖野　柳子
國井よしを子　加藤　隆子　加藤やす子
西野きぬ子　川上きん子　北島もと子
關根たか子　丸山千世子　葛　たみ子
小田切とわ子

左の諸氏は本會の爲め左の如く會員の種類を變更せられたり

●會員種類變更

特別會員　前通常會員　長崎多恵子
特別會員　前通常會員　池田米子
特別會員　前通常會員　中村音海子

●贊成員承諾

大阪市に於て有力家なる谷始太郎君には今回本會の贊成員たることを承諾せられ專ら大阪地方會員誘導の事に盡力せらる

●本會入會者

○副會長　濱尾作子紹介
●豊多摩郡下戸塚町五百六十八番地　終身會員　松前勝子
●麻布區材木町五十五番地　特別會員　増島華砂子
○牛込　中村音海子紹介
●神田區駿河臺袋町十二番地　特別會員　平田道子
○事務所員紹介
●小石川武島町九番地　終身會員　清水しづ子
●芝區神谷町二十二番地河島方　特別會員　河島ぶん子

●小石川區同心町十四番地　通常會員　宇都宮多歌子
●京橋區銀座三丁目三番地　通常會員　萩原さの子
●神田區駿河臺南甲賀町八番地佐藤俊方　通常會員　佐藤俊子
●神田區駿河臺南甲賀町八番地　通常會員　篠塚たけ子
●牛込區水道端二丁目四番地　贊成會員　和田義三郎君
●豐多摩郡西大久保二百五十六番地　贊成會員　山本作三君

○羽後國　伊藤てつ子紹介
●羽後國秋田仙北郡角館町小人町五番地　通常會員　阿部なか子

○役員　宮本らく子紹介
●四谷區愛住町三十八番地　通常會員　河野きし子

○山梨贊成員　深澤清賢君紹介
●山梨縣中巨摩郡小井川村　通常會員　樋口まさ江子

○日本橋區　伊藤てつ子紹介
●日本橋區久松町二十九番地杉浦方　通常會員　轟つゝ子
●仝所　通常會員　須田きよじ子
●仝所　通常會員　鵜澤糸子
●仝所　通常會員　細田とり子

○日本橋區　林つる子紹介
赤坂區青山北町六丁目十七番地　通常會員　島津治子

○麹町區　近藤きく子紹介
府下千住中組八百三十九番地　通常會員　藤田ゑい子

○長野　平野とし子紹介
●長野市日本赤十字社支部　通常會員　田中しま子
●仝所　通常會員　山岡みつ子
●仝所　通常會員　武野つる子

○日本橋區　飛子とき子紹介
●日本橋區新衞門町　通常會員　澤川宗助君内

○山梨　窪田子貞君紹介
●山梨縣西山梨郡大宮村若山宮組　通常會員　望月りやう子

○山形　國井よしを子紹介
●山形縣東村山郡山邊村　通常會員　樫木榮子

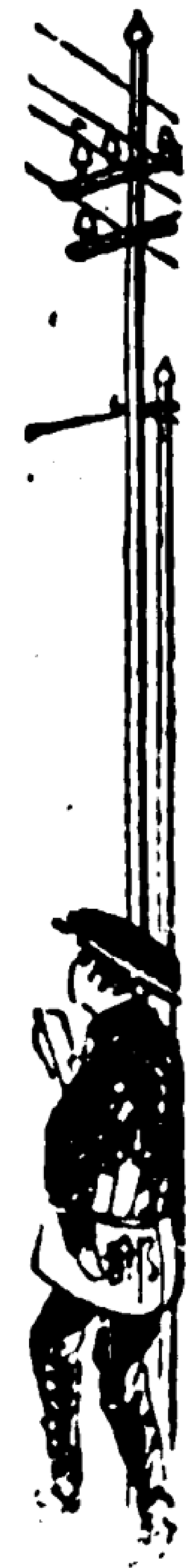
○長野　碓田ぶん子紹介
●長野縣諏訪郡上諏訪町如意堂　贊成會員　永沼平治君
●仝縣仝郡仝町高島病院内　通常會員　折橋わき子

○下谷區　小山はな子紹介
●下谷區練塀學校内　通常會員　横堀乙二子
●仝所　通常會員　増田りう子
●仝所　通常會員　藤牧ふじ子

○甲府　武藏秀直君紹介
●甲府市横近習町　通常會員　新藤ふさ子
●甲府市横近習町八十五番戸　通常會員　守屋五男三
●甲府市錦町田邊順五郎方　贊成會員　小林卓君

○甲府　武藏つね子紹介
●甲府市若松町佐久間直方　通常會員　小林しげ子





轉居

會員諸氏御轉居の際は必らず乍御手數事務所宛御一報相願候

●山形縣西村山郡白岩町川崎方へ　常世改　劒持千代子
●淺草區橋場町十二番地内藤知興方へ　古川節子
●新潟縣北蒲原郡中條町五百三十番戸へ　樋口つや子
●廣島市鐵砲町山縣旅館内へ（十一月末元へ歸着）田口岩子
●麻布區宮村町七十八番地へ　古川榮君
●京橋區南八丁堀三丁目一番地へ　福島たき子
●清國牛莊横濱正金銀行支店内へ　中村久良子
●牛込區加賀町二丁目十二番地へ　西川ふみ子
●麴町區富士見町五丁目十六番地へ　清洲とみ子
●牛込區矢來町三番地山里九十號へ　吉田かね子
●芝區新堀町二十四番地へ　木村ふみ子
●赤坂區靈南坂町二十番地へ　進とし子
●北海道石狩國上川郡鷹栖村臨時陸軍建築部派出所構内　渡邊ふさ子
●長崎縣下縣郡宮谷町四十八番戸へ　吉富霜子
●甲府市元紺屋町　武藏常子
●岡山市丸山帝國商業銀行社宅へ　麻生富久子



●十二月例會廣告

來十二月八日（第二土曜日）午後正一時より晴雨に拘はらず本會の例會を**麴町區永田町華族女學校**内に於て相開き候間萬障御繰合せ御知友御誘引御出席被下度右御通知申上候也

追而衣服は可成御質素に相願候

當日講師

一演題未定　醫學博士　**弘田長君**

外一名

明治三十三年十二月

私立　**大日本婦人衛生會**

鍋島侯爵夫人題字
下田歌子女史著

信越紀行

洋装美本全一冊
八月初旬出版

右は日本婦人第一號より連載せし本會々長の著作なり。今般人々よりの希望により更に集めて一巻となし、刊行することゝせり。同巻中には鮮明なる同地の名所圖畫數葉を挿入し、加ふるに同地に於ける歌人の吟詠あまたを添へたれば、居ながらにして同地の名所舊跡を知ることを得べし。且つ其製本は優美高尚にして、紙質等も精撰したれば進物としても最と體裁よき書なり、有志の諸彦は賣れ盡さぬ内速に申込ありたし。

明治三十三年七月

帝國婦人協會

産科往診

東京市内ニ居住ノ妊婦ニシテ出産時本院ニ來リ診察ヲ受ケ難キ場合ニ於テ往診ヲ請フトキハ産科專門ノ醫員等ヲ派シテ診療セシム

但診察料及凡テ其他ノ費用ヲ要セズ

九ケ月以上ノ妊婦ニシテ入院ヲ請フモノハ診察ノ上官費又ハ私費ヲ以テ入院ヲ許ス

明治三十三年十一月

東京本郷區元富士町(電話本局四百四十四番)

東京帝國大學醫科大學附屬醫院

私立大日本衞生會

新潟支會規則

第一條　本會は大日本婦人衞生會に屬し婦人衞生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり

第二條　當支會の會費は左の六種とす

終身會員		一時限り出金貳拾圓
特別會員	毎月	金參拾錢
通常會員	仝	金貳拾錢
支會員	甲毎月	金拾錢
	乙仝	金五錢

第三條　入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし

第四條　會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衞生雜誌を配布す

第五條　會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衞生慈善資金とす

第六條　支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く

會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す

各役員の任期は一ケ年とし再撰するを得役員は總て無給とす

第七條　支會は毎月六日通常會を開き衞生及び慈善に關する演說をなすべし

第八條　毎年一月總會を開き支會の要務を舉行す

第九條　本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし

第十條　天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし

會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし

第十一條　一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす

第十二條　支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし

第十三條　特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衞生會の規則を準用す

私立大日本婦人衞生會

山形支會規則

第一條　本支會は私立大日本婦人衞生會々員山形市在住者を以て組織す

第二條　本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く

會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す

役員の任期は一ケ年とす

第三條　本支會は毎月一回（第一日曜日）講話會を開き毎年一回（五月）總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす

第四條　入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし

本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし

第五條　本會々費は會計幹事に納むべし

但し六ケ月又は一ケ年分

新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし

第六條　服裝は精誠質素なるを要す

上着及羽織は絹布を用ゐるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

私立大日本婦人衞生會

山形支會

事務所山形市檜物町川上方

大日本婦人衛生會規則摘要

一 本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究せしめ衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を増進するにあり
一 會員たるを欲する婦人は何人にても入會することを得
一 入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込むべし入會者には會員證を交付す
一 會員を分ちて終身特別及通常の三種とす
一 終身會員は一時に金拾圓以上●特別會員一ヶ月金貳拾錢以上●通常會員一ヶ月金拾錢を納むるものとす●男子賛成員亦同じ
一 男子にして本會の旨趣を賛成する者は之を賛成員とす其會費は本會員に同じと雖も本會に功勞あるもの又は本會に於て特別賛成員たることを望みたる者は役員協議に依り無會費とすることあるべし
一 會員は本會に於て毎月發行する雜誌を無料にて受ることを得
一 退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より又通知すべし但既納の會費は返戻せず
一 集會は例會總會及評議會員とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし通常第一土曜日午後一時より開會するものとす
　但毎會學識經驗ある者に衛生上の講義演說談話を囑託し會員をして傍聽せしむるものとす
一 會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を陪聽せしむることを得(勤めて衣服は質素たるべきこと)
一 講義演說等は男子の傍聽を禁ず但賛成員若くは會員縁故ある男子は此限にあらずと雖も賛成員の外は本會の都合に由り臨時謝絕することあるべし

●支會

一 地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得
一 本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載し申出つべし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報知すべし
一 本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす尚詳細は本會事務所へ承合すべし

●注意

一 會費は東京府下に限り毎月會費領收人を差出すべし地方會員入會の際は前金を以て會費三ヶ月分又は六ヶ月一ヶ年分を納付せらるべし
一 會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局(東京牛込郵便局)宛振出あるべし又通運便何にても差支なし
一 會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に郵券三錢を添へらるべし
　但止むを得ざる場合には郵券を代用するも妨げなしと云へども總て一割増とす
一 轉居せられたるときは其旨必らず本會事務所宛通知せらるべし
一 會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざるものは役員會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

廣告料		
一行	一頁	總て前金
十錢	參圓	

本誌定價一部二十錢　毎月一回發行

東京市牛込區矢來町三番地中丸、四
發行所　私立大日本婦人衛生會
編輯兼發行者　東京牛込區矢來町三番地　田中德三郎
印刷者　東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地　戸上義章
印刷所　東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

(明治二十六年四月四日)第三種郵便物許可(明治二十一年二月二十八日內務省許可)